日本遺産「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市」
日本遺産ガイドブック～石造物編

目　次

一　箱庭的都市尾道を形成する石造物・・・・・・一
二　石造物の種類・・・・・・・・・・・・・・・・・三
三　箱庭的都市の魅力的な石造物・・・・・・・・・・六
　厳島神社の石造物
　浄土寺の石造物
　久保八幡神社（亀山八幡宮）の石造物
　西國寺の石造物
　正授院の石造物
　御袖天満宮の石造物
　妙宣寺の石造物
　艮神社の石造物
　千光寺の石造物
　吉備津彦神社の石造物
　光明寺の石造物
　持光寺の石造物
　住吉神社の石造物
尾道石工の石造物リスト・・・・・・・・・・四〇
　山根屋源四郎等　山根屋系石工
　川﨑清三郎
　山城屋惣八・宗八
　丈助
　島居勘十郎
　嘉十郎

一　箱庭的都市尾道を形成する石造物

平成二十七年度に日本遺産に認定された「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市」は、町を散策することで、ストーリーが体感できるようになっている。以下が日本遺産に認定されたストーリーである。

「船に乗って尾道水道を進むと、川を遡っているような感覚になるだろう。尾道水道は、瀬戸内海に面した港町尾道と対岸の向島に挟まれた幅狭の水道で、いわば「海の川」である。利便性の高い「海の川」は重要な交通路として多くの商人に重宝され、尾道は、中世には瀬戸内海の人・もの・財が集積する港町として発展した。

この尾道水道と尾道三山（大宝山・摩尼山・瑠璃山）に縁どられた狭小な空間には、町の発展とともに多くの寺社が建てられた。寺社が増えるに従い、その周辺に更に家々が密集して建ち並び、現在の水道間際まで家々がせまる風景が作り出されることとなった。

船上から尾道を眺めれば、尾道三山と街の景色が一望できる。それぞれの山腹に中世の塔がそびえたち、その眼下には寺社と家々がひしめき合って山の斜面に建ち並んでいて、その間を縫うように路地と坂道が続いている景色である。

尾道の住民は、尾道水道とともに生き、暮らしてきた。

「この所のかたちは北にならびて、あさぢ深く岩ほこりしける山あり。ふもとにそひて家々所せくならびつつ、あみほすほどの庭だにすくなし。西よりひんがしに入うみとをく見えて、朝夕しほのみちひもいとはやりかなり。風のきをひに従ひて、行くる舟のほかげもいとおもしろく、遥なるみちのくつくし路のふねも多くたゆたゐたるに、・・（略）」

この名文は、南北朝時代の著名な武将であり歌人の今川了俊が書いた紀行文『道ゆきぶり』の一節である。中世の尾道の様子を最も美しく表した文章で、尾道三山と尾道水道に囲まれた港町に網を干すほどの庭も少ないほど、家々が密集しており、尾道水道は潮の流れも速く、風の吹くまま行き交う船の帆影も面白く、遠く東北や九州への船も寄港しているなど、当時から既に自然の良港として、瀬戸内随一の港町の発展の様子がうかがえる。

桟橋で船から降りると、太鼓の音やにぎやかな町の声が聞こえてくる。町中では四季折々の祭礼や伝統行事が行われており、細い路地でひしめき合う住民の中を、神輿などが練り歩き、町全体が活気にあふれている。桟橋から斜面地に足を向けると、山麓の約二㎞の範囲に今も中世から続く二五の寺院が並び立っている。これらの寺社や住宅をつなぐ路地や坂道をたどれば、目の前に突然、寺院の大きな屋根や庭園をもつ住宅が現れたりする。また、斜面地には、生活に必要な井戸が点在し、その傾斜を利用して二階井戸が生まれ、坂道の上下の住宅で共有して井戸が使える仕組みができるなど、路地と坂道に点在する井戸端が、住民が集まる立体的な空間となっている。

こうした路地や坂道が尾道の生活基盤となっており、寺社や住宅、庭園そして港、尾道水道をつなげ、人々をつなげている。その路地や坂道を作り出している石段、石畳、石垣などは全て岩山である尾道三山から切り出された石でできていて、尾道は狭小な空間に展開する巨大な石造物といえる。路地や坂道を歩けば、こうした石垣や石段、井戸、さらには、寺社の石塔や狛犬、燈籠などの美しい石造物や巨岩に出会うことができる。斜面地では、不思議と祭りの喧騒もなく、静かで穏やかな時間が流れている。また、ふと振り返ると、坂道から対岸の向島や尾道水道、そして尾道の町並み全体を見渡すことができ、寺社や住宅と一体化した石造物に囲まれ、山と海と地域の一体的な景観の中にいる感覚を体験することができる。

尾道に住んだ志賀直哉は小説『暗夜行路』で、対岸の向島から石切場の人々の唄や作業の音が聞こえてきたり、千光寺の鐘の音がすぐ反響することなど、箱庭的要素を描き出した。現在でも対岸の造船所の音や尾道水道を通る船の音などが町中で聞こえてくる。

斜面地から下ると、境内を線路や道路で分断された寺社を抜け、密集した家々とそれをつなぐ細い路地が見える。路地に一歩入ると、その先には神社や近代的な建物、住宅を改装したお洒落な店舗など、尾道が歩んできた様々

な時代の文化を感じることができる。

このように、尾道では路地と坂道が複雑に入り組み、さらに人を迷わせ、迷路に迷い込んでしまったような感覚を体験できる。路地と坂道を抜けた先には、突如として、美しい尾道水道や寺社建築が姿をみせ、別世界に入り込んでしまったような空間が広がる。

尾道は、こうした限られた空間ながら実に様々な顔を見せ、今も昔も多くの人を惹きつけてやまない。」

このストーリーの重要な要素として、箱庭的都市尾道を形成している様々な石造物を取り上げている。箱庭的都市を形成する石造物は、神社の鳥居・狛犬・燈籠、寺院の石塔・手水鉢・墓石等だけでなく、斜面地の石垣や石段など、町全体に広がっている。日本遺産の構成文化財　千光寺磨崖仏や浄土寺境内の石造物群の他にも数多くの魅力ある石造物から、箱庭的都市が形成されている。

本ガイドブックは、そうした日本遺産「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市」を形成する魅力的な石造物を紹介し、日本遺産のまちを散策したり、町案内をしたりする際に役立てていただくために作成した。魅力的な石造物は、山地や寺社の境内、沿岸部など、様々な場所に点在し、また、場所と場所を結ぶ坂道や路地などもその多くが石を加工して作られている。

港町である尾道には、古くは仏教の布教にともない、奈良等から石工が訪れ、また、それが尾道に技術として伝わり、鎌倉時代後期から室町時代にかけて、宝篋印塔や五輪塔が製作された。日本遺産構成文化財である浄土寺や西國寺などにもそうした石造物があり、それらをめぐることも楽しい。また、日本遺産村上海賊の構成文化財である浄土寺の越智式宝篋印塔も、そうした中世の地域間交流の痕跡でもある。

戦国時代頃からは、中世の石工技術を受け継いだ、地元尾道の石工たちが飛躍的に活動する。愛媛県松山市道後公園には、道後温泉の湯蓋（愛媛県重要文化財）があり、享禄四年（一五三一）に伊予守護の河野通直が製作を命じ、銘文を尾道石工が彫っている。そこには、「大工備後尾道芥河□□□重」とある。また、構成文化財である千光寺阿弥陀三尊像（磨崖仏）などもこの頃に製作されているが、石工銘は彫られていない。おそらく尾道石工が製作しているものと考えられる。

その後、江戸時代に入ると、五輪塔等の他に、神社の鳥居や燈籠、狛犬といった石細工が主流となり、多くの石工が活躍することとなる。特に江戸時代後期からは、全国からの船の寄港により、北は北海道から南は九州まで、各地に尾道石工製作の石造物が運ばれ、いわゆる尾道ブランド品として、取引されている。

本ガイドブックでも、多くの石造物に寄進者や願主、世話人、石工と様々な人が関わったことを解説している。石造物は、外観の美しさだけでなく、そこに刻まれた貴重な情報により、製作された当時の状況が垣間見えるのである。石造物を見る、めぐる楽しさは、まさに歴史を紐解くヒントを私たちに与えてくれる、その情報にある。

箱庭的都市尾道の中で、坂道や路地をめぐり、寺院や神社を訪れて、多くの石造物に出会っていただければ、尾道の魅力をさらに体感できる。本ガイドブックがそうした町歩きの一助になれば幸いである。

本書は、尾道市歴史文化まちづくり推進協議会事務局（尾道市企画財政部文化振興課）西井亨が執筆し、尾道市歴史文化まちづくり推進協議会が編集した。

本書に掲載している写真は、西井が撮影した。

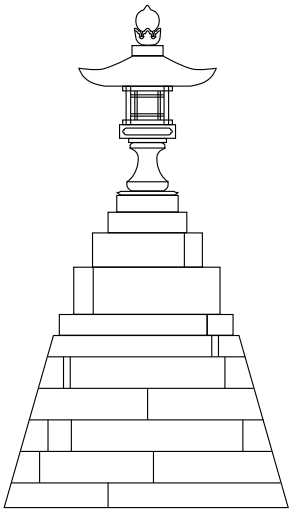
本書に掲載している石造物データは、平成二八年三月に刊行した尾道市日本遺産調査報告書Ⅰ「尾道の石造物と石工」をもとにしている。

本書に掲載した内容は、平成三〇年二月に実施した第十六・十七回文化遺産パートナー養成講座「箱庭的都市尾道を歩く～石造物を中心に」に基づいている。

二　石造物の種類

（一）燈籠

燈籠とは、神殿の前や境内に建てられた左右一対の石造物である。もともとは仏前に供える灯明台として中国から仏教とともに伝わったもので、仏堂の前に一基建てていた。平安時代以降、神仏習合によって神社にも建てられるようになり、室町時代以降は神殿前や境内、参道の左右に対をなして建てられるようになった。近世以降は茶の文化の影響で庭園の装飾としても用いられるようになった。一般的な構造は下から基礎、竿、中台、火袋、笠、宝珠の六つの部分からなり、火袋の形によって八角、六角、四角、円形灯籠とよばれる。



尾道石工が製作した燈籠は、四角と円形の燈籠があり、笠が方形で先端が尖る形状で、柱部分が曲線となり、下に階段状の基壇がつくものと、柱部分が円柱状で、小型のものに分類できる。前者は常夜灯と同じ形状であり、二個で一対となる。柱部分に奉や寄進等の字、製作年月日が刻まれ、台座部分に石工名がみられることが多い。

製作年代で多いのは、文化・文政・天保期である。この時期の燈籠は、ある程度定型化されており、宝珠が乗り、笠は方形で先端が尖り、火袋、中台、そして、湾曲した竿（柱）、基礎（台座）となる。竿に年月日や寄進者、そして、金毘羅権現、奉寄進といった文言が入る。尾道石工が製作した燈籠の特徴として、笠の先端が上向きで鋭く尖るものが多く、また、竿の湾曲も極限まで鋭いなど、彫刻技術の高さを見せつけるかのような美しさがあげられる。こうした特徴は、江戸時代を通じて残り、近代になると、竿が若干太くなり、どっしりとした感じを受ける。また、これらの燈籠の特徴は、常夜燈にもそのままあてはめることができる。

異なる形式として、かんざし燈籠がある。厳島神社のかんざし燈籠は、尾道でも有名な石造物であり、大型で優美な姿である。

こうした燈籠の寄進者のほとんどは、氏子であり、氏子中と彫られたものもあるが、○○屋といった屋号が彫られたものも認められる。また、氏子の場合は、基礎にびっしりと氏子の名前が彫られており、信仰の高さをうかがうことができる。

（二）常夜燈

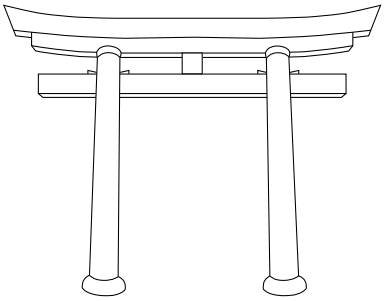
燈籠の中で、①対ではなく単独である、②街道沿いや港湾、寺社の門前等にある、③基礎が高く積み上げられ、全体の高さが高くなっているものを常夜燈とした。常夜燈の竿に常夜燈の文字が彫られているものも多い。

常夜燈にも種類があり、加工石材を組み合わせたものと自然石を組み合わせたものがある。石工銘があるものとしては、加工石材を組み合わせたものが圧倒的に多く、自然石に石工銘があるものは一点のみである。自然石の常夜燈は、出雲街道等の道沿いや向島や因島では沿岸部に分布している。燈籠の基本的な構造と類似しているが、自然石をほぼそのままの形状で使用していることに特徴があり、かなり大型のものもある。

加工石材の常夜燈は、ほぼ定型化されている。ただし、基礎石を高く積み上げることにより、かなりの高さとなる場合がある。因島椋浦町の常夜燈は、高さ四ｍであり、土堂の住吉神社の常夜燈が三ｍ、御調町大田の常夜燈が四ｍと市内最大級である。

（三）鳥居（華表）

鳥居とは、神社などの参道入り口に建てて、神域を示す一種の門である。神社によっては複数の鳥居を持っているところもあり、それらは参道の入り口に近いところから一の鳥居、二の鳥居とよばれる。鳥居の形式は大きく神明鳥居と明神鳥居に大別できる。神明鳥居は左右2本の柱の上に笠木をわたし、その下に柱を連結する貫を入れた単純な構造の鳥居である。一方明神鳥居は笠木の下に島木が付いた形式で、左右の柱には転び（八の字の傾き）があり、島木と貫の間の中央部に額束、柱と貫の結節部に楔が付いた、今日よく目にする形である。石鳥居は風化に強い花崗岩製のものが多い。



（四）狛犬

狛犬とは、神社の社殿前や参道などの両側に置かれた一対の獅子型の像のことである。邪を退け神域を守護するものとして置かれる。口を開く阿像と口を閉じる吽像とで一対とするのが一般的である。昔高麗では獅子を神域の守護神として据える風習があり、これが日本に伝わってきたときに「高麗犬」を「こまいぬ」と呼ぶようになったともいわれている。江戸時代には「唐獅子」と呼んでいる史料もある。形式は、一般的な座った姿勢のもの（座型）から、前足を低くして構えている姿勢のもの（構え型）、両前足を玉に掛けたもの（玉乗り型）など、いろいろな形式のものが存在する。座型が古く、文政頃から玉乗り型と構え型が出現する。明治時代には、玉乗り型が主流となる。

市内で最も年代の古いものは、長江一丁目艮神社の狛犬である。寛政十二年（一八〇〇）、明屋八三郎作で、座型、正面を向き、非常にどっしりとした大型の狛犬である。

（五）手水鉢

社寺の境内に置かれ、神仏に拝する前に手や口の汚れを洗い清めるための水を溜めておくもの。自然石をそのまま利用したものや、貝や舟、富士、一文字、なつめなど様々な形に加工されたものがあり、正面、側面・背面などには銘文が刻まれていることも多い。

また手水鉢は書院などの縁先や茶庭、厠の出入り口にも置かれるようになり、手洗いのため、また建物や庭に入る前に心身を清めるために用いられた。

文化～文政年間に、手水鉢の形式が固まったようで、浄土寺のもののように、大型で脚が流水紋となっているものが多い。

（六）標柱

神社の神殿前や境内の入り口などに注連縄をかけるために建てられた、左右一対の角柱。神域を標示するものである。瀬戸内海沿岸や島嶼部によく見られるもので、特に広島県に多く分布する。材質は花崗岩が主である。角柱の頭頂部が水平のものや先がとがった四角錐形もの、四隅が反りあがった形など、様々な形式が見られる。柱には神訓や建立目的が刻銘されている。

最も古い年代の標柱は、土堂二丁目住吉神社の文政三年の標柱である。各

面の端に上から下までの細い線刻が彫られている。

（七）石塔

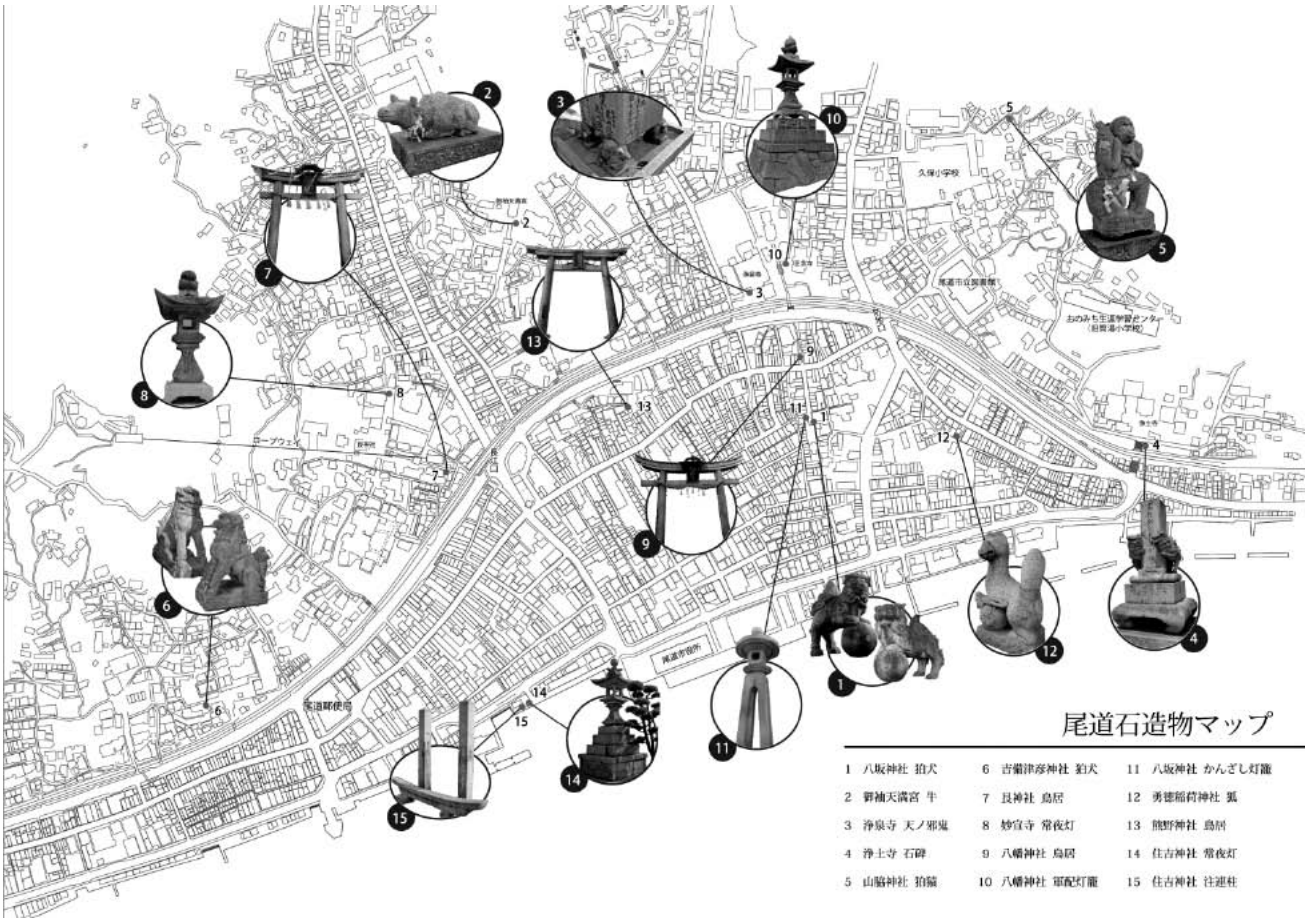
石塔には、層塔（十三重塔・七重塔など）、宝塔（納経塔など）、五輪塔、宝篋印塔、一石五輪塔などがある。

層塔は、方形の基礎の上に幾層も笠石をすえたもの。宝塔は、方形の基礎の上に円柱状の塔身をおいたもの。五輪塔は、方形の基礎（地輪）の上に、球形の水輪、笠である火輪、半球形の請花（風輪）、宝珠（空輪）の順で置いたもの。宝篋印塔は、宝篋印陀羅尼という呪文を納めた塔が元で、後に墓、供養塔となった。下から、方形の基壇、基礎、立方体の塔身、隅飾突起をもつ笠、その上に相輪を乗せる。塔身の四面に金剛界の四仏を梵字で刻む。

（八）板碑・磨崖仏

板碑とは、板状の石塔婆で、山形に頭をつくり、その下に梵字や銘文を刻む。特に室町時代に多くみられる。自然石を利用して梵字などを刻む自然石板碑もある。

磨崖仏は、自然石に彫刻して、石仏を彫りだしたもの。寺院裏山や海岸沿いにみられることが多い。



三　箱庭的都市の魅力的な石造物

一　厳島神社　玉乗り狛犬

尾道市久保二丁目

阿像　天保八年丁酉五月

吽像　文政四年辛巳六月吉日

阿吽どちらも、市内最大の狛犬。花崗岩製。玉乗り狛犬は、尾道石工が江戸時代後期に制作したのが始まりとされ、現在確認できている中で、文政四年の吽像が最古と考えられる。石工銘は、部分的に「藤原」しか確認できないが、「山根屋源四郎藤原傳篤」の作と考えられる。ほぼ真円に近い球形と獅子の組み合わせは、かなりの彫刻技術を必要とする。

阿像は、天保八年の銘があり、石工銘は「當所□棟梁□　定□」とあるため、吽像とは異なる石工が製作しているようである。だが、いずれも棟梁石工が製作していると考えられる。願主は「富吉屋兵助」「桒岡屋茂甫」である。

吽像

阿像

二　厳島神社　かんざし燈籠

尾道市久保二丁目

文政十年星次丁亥六月吉日

通称「かんざし燈籠」。円形の笠に丸みを帯びた火袋、四つ又の脚をもつ。「石工　善三郎作」。このような形状の燈籠は、十八世紀後半に比較的多くみられ、足が短く、反る形状のものが多い。これだけ足が長い燈籠は少なく、まさに「かんざし」を意識して制作されている。燈籠に伝わる伝説とも符合する。

石工善三郎は、文政六年から文政十年の間に十点余りの石造物を製作している。狛犬や燈籠、供養塔など、様々な種類があり、かんざし燈籠を始めとして、見事な彫刻技術を示している。

久井稲生神社（三原市）

福善寺

三　浄土寺　結界石

尾道市東久保町

弘安年間ヵ（鎌倉時代）

浄土寺の東西の端に位置する一石五輪塔形の結界石。通常、結界石は東西南北に配置されることが多いため、本来はもう2箇所にあった可能性もある。地輪部分に銘文が彫られているが、かなり磨滅しているため、判読が難しい。弘安の銘があるとされ、市内でも最古の銘文がある石造物である。一部に火（熱）をうけており、浄土寺が正中二年に火災にあった際のものではと推測されている。

四　浄土寺　柔能制剛の石碑

尾道市東久保町

文政八年乙酉十一月

浄土寺山門横にある「柔能制剛弱能制強」と刻まれた石碑。石碑とその両横によりそう狛犬は一石彫である。新陰流の剣豪、「佐野勘十郎義忠」の記念碑。

五　浄土寺　手水鉢

尾道市東久保町

文政戊子之孟春造（文政十一年）

花崗岩の手水鉢で、石工銘は、「石工棟梁川﨑清三郎　藤原貞些　石工　太七作」である。大型で脚部には流水紋が彫られる。卓錫泉とは、錫杖を地面にうつと、泉が湧き出た中国の故事によるものか。

六　浄土寺　燈籠（参道入り口）

尾道市東久保町

安政七年庚申三月吉日（東）

元治紀元甲子九月吉日（西）

東燈籠が「當所石工　勘十良」、西燈籠が「當所石工嘉十郎　作」。四年のずれがあるが、大きさや形式を合わせた燈籠。

七　浄土寺　燈籠（経堂前）

尾道市東久保町

元禄十三庚辰二月十八日

中台が長く、真ん中を細く仕上げる、江戸前期の燈籠。火袋が特徴的。小津安二郎の映画「東京物語」で、浄土寺での印象的なシーンに登場する。

尾道市内では、最古級の燈籠。

八　浄土寺　納経塔（重要文化財）

尾道市東久保町

弘安元年戊寅十月十四日

孝子吉近敬白 大工形部安光　　高さ二・七ｍ

尾道商人　光阿弥陀仏のために、息子の光阿吉近が建てた供養塔。光阿弥陀仏は、浄土寺が定証によって再興される以前に、現在の浄土寺阿弥陀堂などの建築に尽力した人物である。

塔身に胎蔵界四仏の種字をきざみ、法華経・浄土三部経・梵網経などを奉納したものである。基礎に格狭間をつけ、塔身の上に高欄（首部分の帯状作り出し）を設けている。笠の上に露盤をおき請花・宝珠にしてあることは古調で、大きい基壇とあいまって重厚である。塔身に火をうけた痕跡がある。鎌倉時代の石造宝塔の中では年代が古く、形態もよく整った優品である。

昭和三十九年、これを二ｍほど移動させた時、塔内から法華経・香の包・石塔の由来を墨書した木札が、金銀箔を押した竹筒に納められて出てきた。

九　浄土寺　宝篋印塔（重要文化財）

尾道市東久保町

貞和四年戊子十月一日　高さ二・九二m

行円と道金及び二人の妻と考えられる計四名の逆修（生前に自分の死後、または年長者が若い死者の供養をする）と、光考らの追善（死者の冥福を祈り、功徳を積む）のために建立。塔身と基礎の間にある、請花・反華の二重蓮華座の基台は備後南部・伊予地域の宝篋印塔に見られる特徴で越智式と呼ばれる。基壇・基礎には多めの段数が、また基礎上部の曲線の集合・椀のような輪郭をもつ格狭間が装飾性を豊かにしている。南北朝期を代表する塔。

越智式宝篋印塔

足利尊氏供養塔

一〇　浄土寺　宝篋印塔（足利尊氏供養塔）（重文）

尾道市東久保町

南北朝時代　　一・八八m

足利尊氏の供養塔と伝わる。銘文がないため、製作者や年代は不明だが、形式から南北朝時代の作と考えられる。

複弁で飾られた基壇、格座間が彫られた基礎、塔身には月輪（がちりん）内に種子が刻まれている。隅飾（すみかざり）が一部欠損しているが、相輪（そうりん）まで完備しており、南北朝時代の代表的な作例とされる。

浄土寺は、足利尊氏が参詣し、その後も足利家の寄進も受けており、足利家とゆかりの深い寺院であることからも、この塔の存在価値は高い。

一一　浄土寺五輪塔（伝足利直義（ただよし）供養塔）

尾道市東久保町

南北朝時代

足利尊氏供養塔横にたつ五輪塔。尊氏の弟、直義の供養塔と伝わる。空風輪は後補か。

足利直義は、尊氏とともに浄土寺に参詣し、法楽和歌も奉納している。その後、直義の名で多くの寄進が行われ、寄進状も残る。現おのみち生涯学習センター敷地内には、直義によって利生塔（りしょうとう）が建立された。現在は、寄進状、金銅火炎宝珠形舎利容器（こんどうかえんほうじゅがたしゃりようき）、鉄製燈籠が残る。

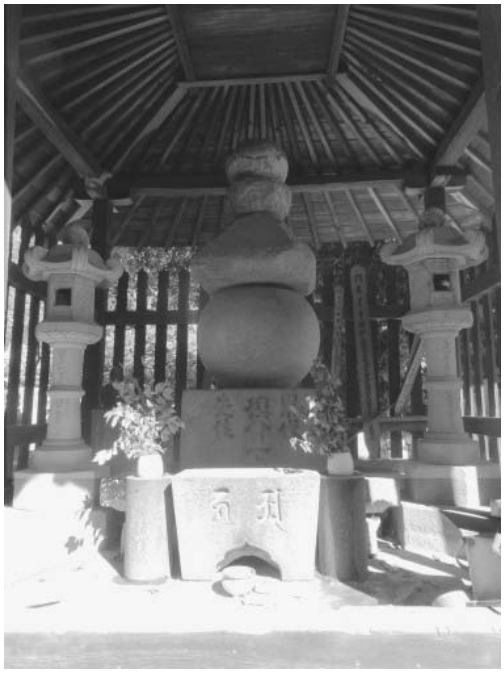
一二　浄土寺開山五輪塔（定証上人墓）

尾道市東久保町

鎌倉時代後期　二・五八ｍ

花崗岩製で、非常に大型である。石の表面に火を受けた痕跡が残り、火輪の一部が欠損している。この五輪塔は、昭和五十七年に市教委により、埋設物が確認されている。

福善寺墓地・西國寺三重塔脇五輪塔と形が類似している。



一三　浄土寺　常夜灯

尾道市東久保町

文化十三丙子九月吉日

尾崎町寄進の常夜灯。「石工川﨑　清三郎　作」の銘あり。浄土寺には、寛保元年以前まで住吉神社があり、多くの海運業者たちの信仰を集めていた。港町尾道の常夜灯として、同じく川崎清三郎作の住吉神社常夜灯とともに、灯台の役割を果たしていた。

一四　浄土寺　狛犬

尾道市東久保町

文政八年正月吉日

「石工　善三郎　作」の銘がある。

安政三丙辰年十一□

「當所石工　隅田屋丈平作」の銘あり。玉乗り狛犬。

一五　浄土寺　十三重塔と六地蔵

尾道市東久保町

江戸時代

本堂と阿弥陀堂の間にたつ、十三重塔と六地蔵。十三重塔を層塔と呼び、木造建造物と同様の構造をもつ。市内には光明坊十三重塔、薬師寺七重塔などがある。

一六　浄土寺山　名号岩（自然石板碑）

尾道市東久保町

元徳四年壬申四月日

浄土寺山中腹の自然岩に彫られた釈迦三尊種子板碑。右横には阿弥陀三尊名号板碑がある。釈迦三尊は直径六五cmほどの円の中に梵字が彫られ、製作年と「願主如願」が彫られている。阿弥陀三尊は、船型の枠線の中に「南無阿弥陀佛」「南無観世音菩薩」「女大施主沙弥尼如真」と彫られている。備後地域最古の自然岩板碑である。

一七　浄土寺山　不動明王像

尾道市東久保町

江戸時代

浄土寺山山頂近くの巨岩に彫られている不動明王像。「大先立　鍛冶文三良　匠文四良」「奉請拝大峯山数箇度供養尊像　當所百萬遍講中」。『尾道志稿』にも記載あり。

一八　勇徳稲荷神社　狐

尾道市久保三丁目

天保十己亥三月

口に巻物をくわえ、牡丹の花が彫刻された玉に乗っている狐。玉乗りは非常に珍しい。尾道石工らしい洗練された造りとなっている。「石工棟梁　川﨑　重□／同　石工兵三□」の銘あり。

一九　荒神社　鳥居

尾道市長江一丁目

文政八年乙酉三月吉日

丹花小路横にある荒神社の鳥居。「當所石工宗八作」の銘あり。宗八や山城屋宗八の銘がある石造物は、数多く確認しているが、石屋町があった尾道町においては、この鳥居のみである。

二〇　久保八幡神社　一の鳥居

尾道市久保二丁目

萬治貳暦霜月吉日

西国街道と随神門の間に建つ一の鳥居。「施主當町中　大工石屋与七郎　小工石屋助六　石屋中」の銘あり。丁寧に加工された軸石、一本石で美しい反りをもつ笠石など、艮神社の鳥居と並ぶ尾道石工を代表する、江戸時代初期の石造物。

二一　久保八幡神社　標柱（しめばしら）

尾道市久保二丁目

天保六乙未五月建

「願主　石屋勘十郎　願主　石屋喜右衛門　願主　石屋要助　願主　山根屋源四郎」の銘あり。注連柱（しめばしら）ともいう。神社の入り口にたつ一対の石柱。瀬戸内特に広島県に多くみられる。注連縄を張る場合もある。

二二　久保八幡神社　狛犬

尾道市久保二丁目

文政四年巳五月吉日

座型狛犬。「石工祐四郎作」の銘あり。願主は「湊屋源七」。文政期の尾道石工作の狛犬の特徴、座型、体は正面、顔が斜め前方をむく。

二三　久保八幡神社　燈籠（軍配燈籠）

尾道市西久保町

天保五甲午八月吉辰

基礎石に軍配形の石材を入れ込んだ燈籠。「石工保兵衛　竹三郎　太右衛門」の銘あり。

二四　久保八幡神社　二の鳥居

尾道市西久保町

正徳六丙申天林鐘初七日

石工銘はないが、願主として「芸備國主四品侍従源朝臣吉長」の銘あり。また、常称寺文書にこの鳥居が元々常称寺境内にあった祇園社の鳥居として寄進されたことが分かり、石工は「石屋作三郎」の記録あり。林鐘（りんしょう）は六月（旧暦）のこと。

二五　久保八幡神社　狛犬

尾道市西久保町

丁巳安政四年八月吉日

構え型狛犬。「當所　石工祐四郎作」の銘あり。随神門前の狛犬と同一の石工である。

二六　久保八幡神社　手水鉢

尾道市西久保町

天保七季龍輯丙申秋九月

大型の手水鉢で、正面に牡丹、脚部に狛犬が彫刻される。「石工　新八」の銘あり。

二七　浄泉寺　天邪鬼（あまのじゃく）

尾道市西久保町

天保十三寅九月

本堂前の水受を支える天邪鬼四体。石工　新八の作である。それぞれ表情が異なり、繊細な造りである。天邪鬼の上の水受は、石工溝上民平による昭和十四年制作である。

二八　福善寺　燈籠

尾道市長江一丁目

寶暦十一辛巳孟夏中建

「石工　當町住　長四郎　同所　新七郎」の銘あり。上部が宝篋印塔のような形状で、竿は真ん中が細くなる江戸時代中期の燈籠の特徴をもつ。大型で、重厚感がある。

二九　福善寺　五輪塔（尾道市重要文化財）

尾道市長江一丁目

鎌倉時代後期

高さ二六八cmと大型で、二基が隣り合っている。福善寺がある丘陵は、丹花（たんが）城と呼ばれた中世城館があった場所。これらの五輪塔は、城主持倉則秀・則保親子の墓と伝わるが、年代があわない。浄土寺開山五輪塔と同じ規模の五輪塔。

三〇　西國寺三重塔脇五輪塔

尾道市西久保町

鎌倉時代後期

高さ二・九mと非常に大型の五輪塔。全ての部材がバランスがよく、美しい形状を保つ。尾道の中世石造物の代表例。この五輪塔は、千光寺山城城主の杉原氏の供養塔と伝えられるが、杉原氏は十六世紀であり時代が合わない。

三一　正授院　燈籠

尾道市長江一丁目

嘉永二季己酉三月吉日

本堂前にたつ全体的に丸みをもつ特徴で統一された燈籠。「石工　新八作」の銘あり。新八独自のデザインである。広島市広瀬神社にも、丸みをもつ新八の燈籠がある。

正授院

広瀬神社

三二　正授院　廻国塔

尾道市長江一丁目

天正十六年戊子八月日（一五八八）

正授院境内にたつ、笠岡屋祖の小川道海（どうかい）が造立した廻国塔。「奉納大乗妙典一國六部成就」「備後州住到崖道海居士　下総日空上人六十六部正□　天正十六年戊子八月日萬事皆如夢」と銘文が彫られている。

三三　正授院　石造常念仏五万日廻向塔婆（市重文）

尾道市長江一丁目

江戸時代

高さ二・六四～二・九三cmの五基の廻向塔婆（えこうとうば）。享保十四年、宝暦九年、天明九年、文政二年、嘉永二年の作。

三四　金比羅神社　常夜灯

尾道市西久保町

文政七甲申九月吉日

「棟梁石工　山根屋源四郎　藤原傳篤作」の銘あり。尾道石工の燈籠の特徴は、笠の隅突起が鋭利で、極端に尖る。火袋の下の竿が細い。つまり非常に高度な技術を要する。

三五　西國寺　門柱

尾道市西久保町

江戸時代後期

「石工　當所　元治」の銘あり。願主は、大蔦力蔵、初潮久五郎である。世話人は歌屋和平。

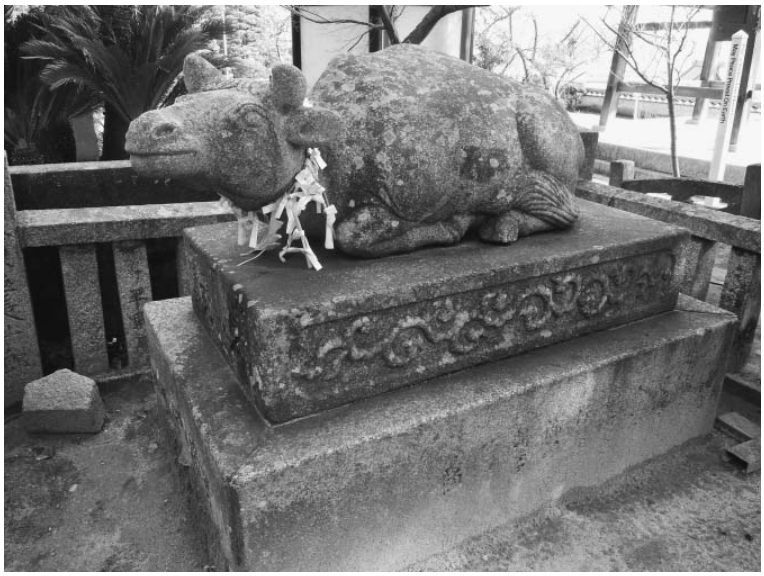
大蔦力蔵は、江戸時代後期の力士で、最高位小結。初潮久五郎は、尾道の力士で、横綱陣幕久五郎の師匠。

三六　御袖天満宮　牛像

尾道市長江一丁目

天保十歳己亥六月吉祥日調

天満宮の牛像。「石工　喜右衛門　重助　多兵衛」の銘あり。

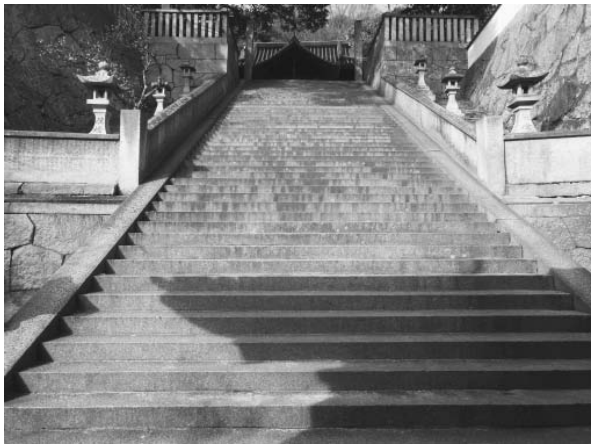


三七　御袖天満宮　石段

尾道市長江一丁目

江戸時代

五十五段の石段。一段の石は最上段以外は一本石の花崗岩。非常に精密に作られていて、現在でもほとんどずれがない。大林監督の映画「転校生」でのロケ地、天神祭の勇壮五十五段大神輿還幸の儀で有名。



三八　妙宣寺　常夜灯

尾道市長江一丁目

弘化三年丙午三月

「棟梁　山根屋　源四郎　藤原傳篤　作」の銘あり。笠石の先端が尖り、竿を細くした典型的な尾道石工製作の常夜燈である。

三九　妙宣寺　石造板碑型供養塔

尾道市長江一丁目

貞治甲辰四月三日（一三六四）

高さ一・六七m。銘文として、「長息山妙宣寺開基大覚大僧正　貞治甲辰四月三日　造立并開眼沙門日延敬白」と彫られている。妙宣寺を開基した大覚大僧正の供養塔。

四〇　妙宣寺　髭題目塔（ひげだいもくとう）

尾道市長江一丁目

弘化二歳次乙巳五月

独特な字体で彫られた「南無妙法蓮華経」が彫刻された題目塔。髭のような字体であることから、髭題目塔と呼ばれる。「石工　嘉十郎」の銘あり。日蓮宗の独特の題目塔で、「法」以外の六文字を髭のように伸ばす書体。

四一　艮神社　鳥居

尾道市長江一丁目

萬治三年庚子三月吉日

久保八幡神社鳥居と同じく、軸石が丁寧に整えられ、笠石が一本石である。笠石の反りとともに、全体的に美しい形状を保っている。「當町中　大工石屋新右衛門　石屋十人」の銘がある。

四二　艮神社　燈籠

尾道市長江一丁目

明治三十八年乙巳十月吉日

随神門前の重厚で美しい燈籠。「当市石工　百島長蔵」の銘があり、近代の代表的な尾道石工である。

四三　艮神社　燈籠

尾道市長江一丁目

寛政七乙卯年九月吉日

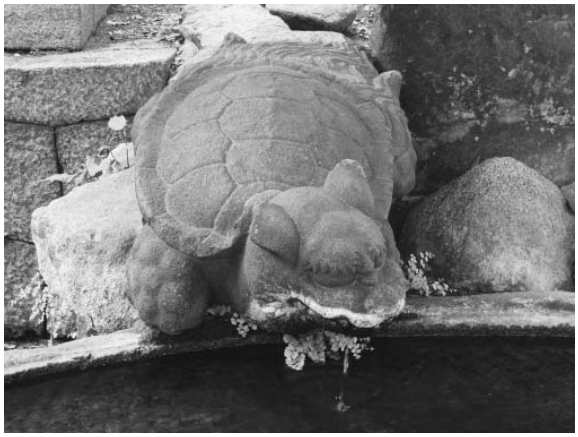
「石工　川﨑清三良　藤原貞之　作」の銘あり。願主は冨吉屋藤三良吉井義判。非常に大型で、中台が柱状の特殊な形状をしている。百島長蔵の燈籠の百十年前の制作となる。

四四　艮神社　手水鉢

尾道市長江一丁目

文政八年九月

「願主　氏子中　世話人　かじや政兵ヱ　いわミや兵蔵　かじや茂平。」石工銘はなし。巨石に手水をうがち、玄武から水がでる仕組み。浄泉寺にも同様の石造物がある。



艮神社

浄泉寺

四五　艮神社　狛犬（拝殿前）

尾道市長江一丁目

寛政十二年庚申十二月吉日

対面式ではなく、前方をむく座型狛犬。花崗岩製。「石工尾道住／明屋八三郎作」の銘あり。尾道市内にある尾道石工作の狛犬では最古。石工銘はないが、御袖天満宮狛犬は前年の作。

四六　艮神社　標柱

尾道市長江一丁目

明治二十八年五月

「石工　寄井彌七」の銘あり。寄進者は西原善平。西原善平は、明治時代に尾道市議会議長もつとめ、西原銀行（後に第一合同銀行と合併）を設立している。

四七　千光寺　参道石段

尾道市東土堂町

江戸時代

江戸時代の絵図には、既に記載がある。箱庭的都市尾道の中でも、古くからある坂道。千光寺の参道であり、この坂道を中心に他の路地や坂道へとつながっている。

四八　千光寺　阿弥陀三尊像（市重文）

尾道市東土堂町

室町時代

花崗岩の自然石に阿弥陀三尊が彫られている磨崖仏。中尊は高さ七一cm。磨崖仏は県内でも例が少なく、市内最古の磨崖仏である。所々に朱色の痕跡がみられ、彩色されていたことがうかがえる。日本遺産の構成文化財。

四九　千光寺　石造逆修塔　二基（市重文）

尾道市東土堂町

天正十七年（一五八九）

一尊仏と二尊仏があり、どちらも逆修のためのものである。二尊仏は夫婦、一尊仏は阿性という女性のものである。

五〇　天春の石垣

尾道市東土堂町

大正時代

大正時代に尾道商人天野春吉氏により、茶園が築かれ、その際に石垣と石段、防火水槽、井戸などが整備された。現在の千光寺新道の景観は、この頃につくられたものである。

五一　吉備津彦神社　鳥居

尾道市東土堂町

元治元歳甲子仲冬吉日

「石工　幸兵衛作」の銘あり。願主は、船主、商人である。願主は、播州洛俵町□満津屋半兵衛　能□嶋中村堀田屋卯助　芸州大竹浦明神丸政次郎　世話人は、天新、油貞、桶清、魚理（尾道商人）。

五二　吉備津彦神社　狛犬

尾道市東土堂町

文化十三年丙子十月吉日

座型狛犬。阿吽が逆に配置されている。「石工棟梁山根屋源四良　傳篤彫造」の銘あり。尾道石工を代表する石工である山根屋源四郎の初期の石造物。正面を向いて、胸を張りだした座型狛犬は、文化年間に多い。

五三　吉備津彦神社　玉垣

尾道市東土堂町

嘉永七甲寅三月

尾道商人が寄進者として、数多く名前が記載されている。姫路屋定兵衛など、江戸時代後期に活躍した商人が多い。「石工　市介　弁介」の銘あり。

五四　光明寺　宝篋印塔（市重文）

尾道市西土堂町

南北朝時代

高さ二・〇二m。寺伝では、道宗上人開山塔とする。特別な人に対する礼を示す場合に用いる、四方格狭間（こうざま）が見られる。

五五　光明寺　外海定五郎の墓

尾道市西土堂町

文政四年辛巳二月廿五日

横綱陣幕久五郎の師匠、初潮久五郎の師匠にあたる外海定五郎の亀趺（きふぼ）墓。

五六　持光寺　国東塔（くにさき）

尾道市西土堂町

室町時代

安山岩製の国東塔。国東塔は、宝塔（ほうとう）の一種で、大分県の国東半島に多く分布する。国東半島以外の地域では、事例は少ない。一部、後の時代に補修している。宝塔は、浄土寺納経塔のように、丸い塔身に四角い笠を重ねる塔のこと。

五七　持光寺　石門（別名　延命門）

尾道市西土堂町

江戸時代

三十七枚の花崗岩を組み合わせて作られた。元々は、この石門の上に鐘楼（しょうろう）が乗っていたと考えられる。尾道石工の銘はないが、非常に精巧に作られていて、ひずみも見当たらない。尾道を象徴する石造物の一つ。

五八　住吉神社　燈籠

尾道市土堂二丁目

寛政九丁巳穐

大型の常夜灯。港町尾道の灯台の役割を果たす。「石工　川﨑清三郎　藤原貞之　作」の銘あり。願主は、富吉屋喜助小林宜雄。

五九　住吉神社　標柱

尾道市土堂二丁目

文政三年庚辰六月吉日

本来の拝殿の方向である海に向かってたつ。標柱は瀬戸内特に広島県を中心に分布しているが、この標柱が最古のもの。「石工棟梁　山根源四郎藤原傳篤作」の銘あり。

六〇　住吉神社　玉垣

尾道市土堂二丁目

紀元貳千五百三拾七年　維明治十年第一月日曜欽造立焉

「石工　島新七　石垣文助」の銘あり。新潟から九州まで、全国の商人の寄進。尾道との取引先が分かる重要な石造物。越後国糸魚川・鬼舞浦・新潟、佐渡、和歌山、周防国櫛ヶ浜（徳山市）・三田尻（防府市）、出雲国杵築、尾張国常滑、兵庫、越中国立野（高岡市）、備中国早島、唐津呼子、因幡國加路浦、長崎材木町、石見国宅野村など、当時の日本海側、九州、瀬戸内海の諸浦との関係がみてとれる。

六一　住吉神社　力石

尾道市土堂二丁目

嘉永四辛亥五月吉日

「石徳作」の銘あり。石徳は、「石工　徳兵衛」か。他にも力石を制作している。力石は、市内に住吉神社の他に西國寺、妙宣寺、市立美術館横などに置かれている。石徳や石幸（幸兵衛）の銘があり、嘉永～安政年間のものが多い。力石には、寄進者の名前も彫られていて、西濱　和七など沖給仕の名前が多い。

六二　千光寺　えい紅碑（こうひ）

尾道市東土堂町

天保年間

天保五年に尾道を訪れた田能村竹田が、尾道の豪商橋本竹下（吉兵衛）、亀山伯秀とともに、千光寺山に登り、花を愛で、詩をつくり、この碑を刻んで、えい紅碑と名付けた。

山根屋源四郎等、山根屋系石工製作の石造物

所　在　地		種類	西暦	紀　年　銘	石　工　銘
島根県邇摩郡温泉津町西田	水上神社	鳥　居	1724	享保九甲辰年八月吉日	石大工尾道町山根茂三郎
竹原市吉名町宮条	光海神社	鳥　居	1731	享保十六辛亥八月吉日	石大工尾道山根源四郎富重
愛媛県新居浜市山根町	内宮神社	鳥　居	1732	享保十七壬子九月二十九日	石工尾道町山根屋源四郎
広島市東区山根町	尾長天満宮	鳥　居	1734	享保十九甲寅天三月吉辰	石工尾道住山根源四郎藤原之登德
豊田郡大崎上島町東野	古社八幡神社	鳥　居	1735	享保二十年卯八月十五日	尾道住石工山根平三郎藤原之安利
世羅郡世羅町甲山	今高野山龍華寺	宝篋印塔	1738	元文三戊午星孟夏嘉辰	石作大連公　尾道町　藤原氏山根平三郎安利
福山市鞆町鞆	円福寺	宝篋印塔	1730	享保十五庚戌年十一月始四日逝	石工尾道町　山根屋源四郎　山根屋平三郎
福山市北吉津町	観音寺	宝篋印塔	1731	享保十六辛亥八月吉日	石工尾道町　山根屋平三郎　山根屋源四郎
尾道市瀬戸田町鹿田原	厳島神社	鳥　居	1739	元文四乙未卯月吉日	石工尾道住山根源四郎藤原傳駕
福山市新市町	安養寺	宝篋印塔	1739	元文四乙未二月	石工尾道住　山根源四郎藤原傳駕
尾道市因島椋浦町	艮神社	鳥居柱部	1753	宝暦三癸酉年四月吉日	□尾道山根屋源四郎
福山市沼隈町常石奥江	艮神社	鳥　居	1755	宝暦五乙亥四月吉祥日	石工尾道山根屋源四郎
愛媛県伊予市上三谷	廣田神社	鳥　居	1760	宝暦十庚辰天九月十五日	石工備後尾道　山根屋源四郎作
廿日市市宮島町長浜		燈　籠	1763	寶暦十三癸未天六月吉日	石工尾道住山根源四郎藤原傳駕作
愛媛県伊予市上吾川	伊予岡八幡神社	鳥　居	1774	安永三甲午年三月吉日	石大工尾道住山根屋源四郎作　石工尾道山根屋□□
福山市鞆町後地	沼名前神社	燈　籠	1785	天明五年乙巳六月日	石工尾道　山根屋源四郎傳馬　作之
福山市今津町六丁目	高諸神社	鳥　居	1798	寛政十戊午八月吉日	石工　尾道　山根傳篤作
尾道市吉和西元町	八幡神社	鳥　居			尾道住石工山根源四郎藤原之傳駕
福山市鞆町鞆(弁天島)	福寿堂	宝篋印塔			石工山根源四郎　山根平三郎
尾道市西久保町	金剛院	鳥　居	1744	于時延享元甲子天六月吉日	山根氏助十郎
岡山県笠岡市神島内浦	観音堂	観音菩薩像			尾道石工助十郎
三原市鷺浦町須波	小浦八幡神社	鳥　居	1757	宝暦七丁丑歳四月吉日	尾道石工與三
新潟県佐渡市小木町宿根木	白山神社	鳥　居	1773	安永二癸巳年九月十五日	備後国尾道石工　与三郎作
新潟県佐渡市小木町宿根木	白山神社	石　橋	1773	安永五申年	尾道石工　与三郎
三原市東町三丁目	熊野神社	鳥　居	1776	安永五丙申秋	尾道石工　与三郎作
愛媛県伊予市双海町上灘	三島神社	鳥　居	1786	天明六丙午九月吉日	尾道住石工與三郎作
愛媛県伊予市森	天神社	鳥　居	1786	天明六丙午九月吉日	尾道住石工與三郎作
愛媛県伊予市大平	大鷦鷯神社	鳥　居	1791	寛政三辛亥歳六月吉日	尾道住石工与三郎正朝作
愛媛県伊予市中山町	烏帽子之森三島神社	鳥　居	1792	寛政四壬子歳二月吉日	尾道住石工与三郎正朝作
愛媛県喜多郡内子町	宇都宮神社	鳥　居	1803	享和三癸亥春二月吉日	尾道住石工　山根與三郎作
愛媛県伊予市灘町	五色浜神社	鳥　居			尾道石工與三郎作
愛媛県伊予市上三谷	若皇太神宮	鳥　居	1790	寛政二庚戌三月吉日	石工尾道住山根屋源四郎
尾道市東土堂町	吉備津彦神社	鳥　居	1791	寛政三辛亥龍集六月吉祥日	石工山根源四郎好孝
愛媛県伊予市上三谷	三谷神社	鳥　居	1793	寛政五癸丑三月吉日	石工尾道住山根源四郎好□ 石工尾道住山根與三郎正□
福山市水呑町	八幡神社	鳥　居	1797	寛政九丁巳年二月吉日	石大工尾道住藤原丈助　石大工尾道住山根屋源四郎好孝
庄原市東城町東城		常夜燈	1799	寛政十一巳未仲秋	石工　尾道住　山根屋源四郎
福山市津之郷町津之郷	田辺寺	宝篋印塔	1793	寛政五癸丑歳極月造立之	石工尾道　住人山根　源藏　作
福山市松永町五丁目	潮崎神社	石　橋	1716	正德六丙申歳四月吉日	石工　那麻又源三郎
尾道市美ノ郷町木頃	木頃八幡神社	鳥　居	1776	安永五年丙申十月吉日	尾道石工　山根氏源三郎　与三郎
福山市鞆町	安国寺	香　立	1777	安永六年酉二月十五日	石工　尾道住　源□□
三原市須波西町	皇后八幡神社	狛　犬	1804	享和四年子正月吉日	尾道住人　石工源三郎　貞作
尾道市西則末町	烏須井八幡神社	常夜燈	1818	文政元年寅八月吉日	石工藤原源三郎作
香川県多度津町桃山	桃陵公園	常夜燈	1821	文政四年辛巳六月	尾道石工源三郎
三原市鷺浦町向田野浦	恵美須神社	手水鉢	1824	文政七甲申年八月吉日	尾道住石工源三郎作
尾道市因島中庄町	八幡神社	燈　籠	1836	維時天保第七丙申竜仲秋吉辰	尾道石工源三郎作
尾道市西則末町	烏須井八幡神社	燈　籠	1852	嘉永五壬子歳	石工　源三郎作
尾道市西則末町	烏須井八幡神社	狛　犬	1860	萬延元年申七月	石工　彦三郎　源三郎
新潟県糸魚川市能生町鬼舞	五社神社	常夜燈	1861	万延二年酉二月吉日	備後尾道　石工源三郎作
福山市東深津町五丁目	王子神社	石　柱	1799	寛政十一巳未正月吉日	山根十三郎本好作
福山市東深津町五丁目	王子神社	手水鉢	1799	寛政十一巳未正月吉日	石工重三郎作
三原市本郷町	荒神社	鳥　居	1803	享和三年十一月吉日	石工尾道住人山根重三郎藤原本好作
三原市本郷町本郷字木々津	海山神社	鳥　居	1804	文化元甲子十二月吉日	石工尾道山根重三郎作
尾道市瀬戸田町瀬戸田	穀神社	鳥　居	1811	文化八辛未正月吉日	石工尾道住山根十三郎本好作
福山市東深津町五丁目	王子神社	手水鉢		□子夏(文政元年カ)	山根重三郎
尾道市因島椋浦町	港	常夜燈	1805	文化二乙丑年十月吉日	石工尾道住山根屋源四郎尚政作
山口県柳井市柳井津	柳井天満宮	狛　犬	1809	文化六乙巳八月吉日	石工尾道住　山根屋源四郎政尚
豊田郡大崎上島町東野	阿弥陀寺	大観音像	1810	維旹文化七庚午年十月十八日	石工尾道住山根屋源四郎政尚(頭取　山本屋源兵衛)
東広島市安芸津町三津	榊山八幡神社	狛　犬	1815	文化十二年歳在乙亥八月吉	石工尾道住　山根屋　源四郎　傳篤彫造
尾道市東土堂町	吉備津彦神社	狛　犬	1816	文化十三年丙子十月吉日	石工棟梁　山根屋源四良　傳篤彫造
廿日市市宮島町	厳島神社	手水鉢	1818	文化十五年　戊寅五月穀旦	石工　尾道　山根源四郎藤原　傳篤
竹原市高崎町	大乗神社	鳥　居	1818	文化十五歳戊寅三月吉日	尾道住石工棟梁山根源四郎傳篤
東広島市河内町入野	順教寺	燈　籠	1819	文政二年己卯三月	石工棟梁尾道山根源四郎藤原傳篤

神石郡神石高原町油木	油木八幡神社	鳥　居	1819	干竟寛延貳己巳天舞射最大吉旦　宝暦七丁丑年倒壊大風　干竟文政二己卯年九月再建焉	石工尾道山根源四郎藤原傳篤
尾道市土堂二丁目	住吉神社	標　柱	1820	文政三年庚辰六月吉日	石工棟梁　山根源四郎藤原傳篤作
尾道市因島田熊町	八幡神社	狛　犬	1820	文政三年庚辰八月	石工尾道住山根屋源四郎藤原傳篤
尾道市因島外浦町	住吉神社	狛　犬	1820	文政三庚辰歳五月吉日	石工尾道住棟梁　山根屋源四郎藤原傳篤
尾道市久保二丁目	厳島神社	狛　犬	1821	文政四年辛巳六月吉日	□□藤原□(破損)
東広島市河内町入野	竹林寺	燈　籠	1821	文政四年歳在辛巳三月廿八日建之	尾道石工棟梁　藤原源四郎　傳篤
尾道市因島外浦町	艮神社	狛　犬	1822	壬午文政五年九月吉日	石工棟梁山根屋源四良藤原傳篤作
尾道市因島椋浦町	艮神社	狛　犬	1822	文政五年正月吉日	尾道石工棟梁山根屋源四郎傳篤
竹原市忠海東町五丁目	恵美須神社	狛　犬	1822	文政五壬午正月吉日	尾道石工山根屋源四良藤原傳篤
尾道市久保二丁目	熊野神社	鳥　居	1823	文政六癸未五月吉日	石工山根源四郎藤原傳篤
尾道市百島町宮ノ廻	八幡神社	狛　犬	1823	文政六年未九月吉日	石工棟梁　尾道　山根屋　源四郎　藤原傳篤
大竹市玖波五丁目	大歳神社	狛　犬	1823	癸未文政六年九月吉日	石工尾道山根屋源四郎藤原傳篤
尾道市西久保町	金剛院	常夜燈	1824	文政七甲申九月吉日	棟梁石工　山根屋源四郎　藤原傳篤作
尾道市西則末町	烏須井八幡神社	狛　犬	1824	甲申文政七年霜月吉日	棟梁石工山根屋源四郎藤原傳篤作
広島市南区向洋大原町	大原神社	狛　犬	1825	文政八年九月吉日	棟梁石工尾道住山根屋源四郎藤原傳篤
竹原市本町一丁目	住吉神社	狛　犬	1825	乙酉文政八年極月吉日	棟梁石工　山根屋源四郎　藤原傳篤作
竹原市忠海床浦一丁目	床浦明神	狛　犬	1827	文政十年丁亥九月吉日	棟梁尾道住石大工山根屋源四郎藤原傳篤作
尾道市美ノ郷町三成	二宮神社	鳥　居	1828	文政十一戊子歳三月吉日	棟梁石工尾道山根屋源四郎藤原傳篤作
広島市中区本川町	空鞘稲荷神社	狛　犬	1828	文政十一年戊子夏五月吉日	棟梁石工尾道住山根屋源四郎藤原傳篤
三原市深町中組	八幡神社	狛　犬	1829	文政十二丑年九月吉日	棟梁尾道　山根屋源四郎　藤原傳篤　作
福岡県北九州市八幡西区木屋瀬３丁目	須賀神社	狛　犬	1829	文政十又二年己丑六月穀旦	備後尾道住棟梁石大工山根屋源四良藤原傳篤
尾道市向東町天女浜	天女浜神社	狛　犬	1830	文政十三歳庚寅正月	棟梁石大工山根屋源四郎藤原傳篤
尾道市因島三庄町		観音像	1832	天保三年七月	棟梁尾道石大工山根屋源四郎藤原傳篤
世羅郡世羅町甲山	今高野山龍華寺	燈　籠	1832	天保三年壬辰六月穀旦	棟梁　石工尾道　山根屋源四郎　藤原傳篤
尾道市向島町立花	妙見宮	鳥　居	1833	天保四年癸巳正月吉日	棟梁石大工尾道山根屋源四郎藤原傳篤
竹原市吉名町宮条	光海神社	狛　犬	1833	天保四巳年	尾道住　棟梁石大工　山根屋　源四郎　藤原傳篤
大分県杵築市宮司	若宮八幡宮	狛　犬	1833	天保四年癸巳十月	棟梁石大□　尾道住山□□　藤□
尾道市因島椋浦町	艮神社	玉　垣	1835	天保六乙未九月吉日	棟梁石大工尾道山根屋源四郎藤原傳篤
尾道市向島町江奥字烏帽子谷	路傍	常夜燈	1835	天保六未四月吉日	棟梁尾道　石工山根屋　源四郎　藤原傳篤　作
呉市豊町久比	篠原八幡神社	狛　犬	1836	天保七歳六月吉日	棟梁石大工尾道山根屋源四郎藤原傳篤
豊田郡大崎上島町矢弓	厳島神社	常夜燈	1836	丙天保七年申六月吉日	棟梁尾道住石工　山根屋源四郎　藤原傳篤
高知県土佐清水市足摺	金剛福寺	燈　籠	1836	天保七丙申／三月吉日	備後国住　棟梁尾道　石大工山根屋源四郎藤原傳篤
尾道市長江一丁目	艮神社	鳥　居	1838	天保九戊戌九月吉辰	棟梁石大工山根屋源四郎藤原傳篤
尾道市浦崎町乗越	王太子神社	鳥　居	1839	天保十己亥九月吉日	棟梁石工尾道住山根源四郎藤原傳篤
徳島県板野郡板野町犬伏平山	諏訪神社	鳥　居	1840	天保十一歳子九月吉祥日	棟梁石大工尾道住山根屋源四郎藤原傳篤
徳島県板野郡板野町犬伏平山	諏訪神社	狛　犬	1841	天保ヵ十二年□□十日	棟梁石大工尾道住山根屋源四郎藤原傳篤ヵ
福山市鞆町後地	小烏神社	狛　犬	1843	天保十四癸卯年／十月吉日	棟梁石工　尾道住　山根　源四良　藤原　傳篤　作
尾道市長江一丁目	妙宣寺	常夜燈	1846	弘化三年丙午三月	棟梁　山根屋　源四郎　藤原傳篤　作
愛媛県東温市牛淵	浮島神社	狛　犬	1849	嘉永二年酉八月	尾道石工山根屋源四郎傳篤
愛媛県東温市牛淵	浮島神社	燈　籠	1849	嘉永二年酉八月	尾道石工山根屋源四郎傳篤
愛媛県東温市牛淵	浮島神社	玉　垣	1849	嘉永二乙酉年八月	尾道石工山根屋源四郎傳篤作之 當城下石工田野屋藤右ヱ門立之
愛媛県東温市牛淵	浮島神社	鳥　居	1849	嘉永二乙酉年八月	尾道石工山根屋源四郎傳篤作之 當城下石工田野屋藤右ヱ門立之
豊田郡大崎上島町東野	古社八幡神社	狛　犬	1852	嘉永五壬子年八月吉祥日	尾道石工　山根屋源四郎　藤原傳篤　作
三原市沼田東町片島	小方島神社	燈　籠	1854	嘉永七甲寅八月吉辰	尾道石工　山根屋　源四郎　藤原傳篤　作
三原市本郷町下北方	甑天満神社	燈　籠	1856	安政丙辰九月	棟梁尾道　山根屋　源四郎　藤原傳篤　作
三原市本郷町下北方	甑天満神社	狛　犬	1856	丙安政三年／辰九月吉日	棟梁尾道　山根屋　源四郎　藤原傳篤　作
三原市明神四丁目	港明神社	燈　籠	1857	安政四丁巳年六月	石工尾道　山根屋源四郎　傳篤作
愛媛県喜多郡内子町北表	三島神社	燈　籠	1857	安政四丁巳年九月十八日	尾道　石工　山根屋　源四郎　傳篤作
愛媛県喜多郡内子町北表	三島神社	鳥　居	1859	安政六年乙未九月十八日	備後尾ノ道住　棟梁石工　山根屋源四郎傳篤作
廿日市市宮島町	弥山	法華塔			棟梁石大工尾道山根屋源四郎藤原傳篤
竹原市本町一丁目	長生寺	鳥　居			棟梁石大工尾道山根屋源四郎藤原傳篤
福山市柳津町東組	王子神社	狛　犬	1851	嘉永四年辛亥九月	尾道　山源作
岡山県笠岡市関戸	八幡神社	狛　犬	1851	嘉永四辛亥年八月吉日	尾道石工　山源
愛媛県西予市野村町惣川	三島神社	狛　犬	1860	萬延元申年六月吉日	尾道　山源　作
愛媛県西予市野村町惣川	三島神社	狛　犬	1860	萬延元年庚申六月吉日	尾道　山源　作
三原市小泉町	湯原八幡神社	狛　犬	1862	文久二壬戌年八月吉日	尾道山源作
岡山県笠岡市用之江	菅原神社	狛　犬	1862	文久二年戊八月吉日	尾道　山源作
竹原市東野町	金毘羅神社	狛　犬	1863	文久三亥歳仲春調之	尾道山源作
愛媛県喜多郡内子町論田	宇都宮神社	狛　犬	1863	文久三亥年九月吉日	尾道　山源作
福山市草戸町	草戸稲荷神社	狐	1864	文久四甲子歳正月吉日	尾道山源作
竹原市東野町	在屋神社	狛　犬	1864	甲元治元年壬九月吉日	尾道山源作
東広島市西条町西条	御建神社	狛　犬	1866	慶應二丙寅春	石工　山源作
福山市瀬戸町山北	熊野神社	狛　犬	1867	丁卯慶應三年／八月吉日	尾道山源作

呉市蒲刈町田戸	鳩崎八幡神社	狛　犬	1867	慶應三丁卯歳／八月吉日	棟梁尾道　山根源四郎　傳弘作
愛媛県今治市波止浜一丁目	龍神社	燈　籠	1790	寛政二庚戌三月八日	石工尾道住　山根屋源四郎
尾道市西則末町	烏須井八幡神社	常夜燈	1820	文政三庚辰正月吉祥日(明治三十一年)	当所石大工隅田丈助作　山根源四郎作(石谷徳助再建)
尾道市因島三庄町浜上	路傍	常夜燈	1821	文政四辛巳仲秋	石工　尾道住　山根屋　源四郎
三原市本郷町船木	光顔寺	燈　籠	1822	壬文政五年子九月	石工棟梁山根屋源四郎
尾道市因島三庄町千守	路傍	常夜燈	1824	文政七歳申臘月吉辰日	石工　尾道山根屋　源四郎
岡山県笠岡市走出	武宮神社	常夜燈	1824	文政七甲申三月日	尾道石工　源四郎
竹原市本町一丁目	住吉神社	鳥　居	1825	文政八年乙酉十二月吉祥	石工尾道山根屋源四郎
広島市安佐北区可部町綾ヶ谷	福王寺	燈　籠	1828	文政十一戊子十二月造立之	石工尾道源四郎
愛知県知多郡美浜町小野浦	八幡神社	狛　犬	1834	天保五甲午年正月	尾道住棟梁山根屋源四良　當村弥三郎
尾道市西久保町	八幡神社	標　柱	1835	天保六乙未五月建	願主　石屋勘十郎　願主　石屋喜右衛門／願主　石屋要助　願主　山根屋源四郎
豊田郡大崎上島町中野	八幡神社	燈　籠	1836	天保七丙申八月吉日	尾道石工　源四郎作
三原市沼田西町松江	常盤神社	狛　犬	1841	天保十二辛丑年五月吉日	棟梁山根屋源四郎
福山市駅家町向永谷	高倉神社	狛　犬	1844	天保十五甲辰年	棟梁尾道　石大工　山根屋源四良
福山市柳津町	橘神社	狛　犬	1844	天保十五歳九月吉日	棟梁尾道石工山根屋源四郎
愛媛県西宇和郡伊方町明神	客神社	狛　犬	1845	弘化二乙巳九月吉辰日	棟梁尾道　山根屋源四良作
岡山県総社市下倉	八幡神社	狛　犬	1846	弘化三年	尾道石工　山根屋源四郎作
廿日市市宮内	宮内天王社	狛　犬	1848	嘉永元年	石工尾道山根屋源四郎作
世羅郡世羅町甲山	今高野山龍華寺	燈　籠	1848	弘化五年申三月	尾道住　棟梁石工　山根屋　源四良　作
豊田郡大崎上島町明石	御串山八幡神社	狛　犬	1849	嘉永二年	尾道石工　山根屋源四郎
新潟県糸魚川市能生町鬼伏	正八幡神社	狛　犬	1849	嘉永二己酉年五月吉日	石工尾道住　山根屋　源四良　作
島根県大田市仁摩町	宅野八幡宮	狛　犬	1849	嘉永二年乙酉仲春	石工尾□　山根□□
尾道市門田町	阿蘓波神社	狛　犬	1852	嘉永五歳壬子四月調之	尾道　山根屋　源四郎　作
竹原市本町二丁目	本長寺	狛　犬	1852	嘉永五壬子	尾道石工山根屋源□□
愛媛県今治市波方町樋口	潮早神社	狛　犬	1852	嘉永五壬子年八月吉日	尾ノ道石工　山根屋源四郎作
岡山県真庭市北房町上水田字小殿	郡神社	狛　犬	1852	嘉永五壬子三月吉日	尾道石工　山根屋源四郎　作
東広島市西条町西条東北町	諏訪神社	狛　犬	1853	嘉永六年癸丑春	尾道石工　山根屋源四郎　作
東広島市西条町西条	教養寺	常夜燈	1853	嘉永六年癸丑三月廿九日	尾道石工山根屋源四郎作
愛媛県八幡浜市琴平町	金刀比羅神社	狛　犬	1853	癸丑嘉永六年十月吉日	尾道石工　山根屋　源四郎作
東広島市安芸津町風早	祝詞山八幡神社	狛　犬	1854	嘉永七歳次甲寅尊春穀旦	尾道石工　山根屋　源四郎　作
東広島市西条町西条	御建神社	狛　犬	1854	嘉永七年甲寅三月	石工　尾道山根屋　源四郎
竹原市東野町	金毘羅神社	燈　籠	1854	元治元甲子歳初夏吉日調之	尾道石工　山根屋源四郎作
愛媛県東温市南方	森正八幡神社	狛　犬	1854	嘉永七歳甲寅三月	御獅子一対　石工棟梁尾道　山根屋源四郎　作
愛媛県東温市南方	森正八幡神社	燈　籠	1854	嘉永七歳甲寅三月	棟梁尾道石工　山根屋　源四郎作
尾道市向島町江奥字荒神側	須佐之男神社	鳥　居	1855	安政二乙卯季三月吉日	尾道石工山根屋源四郎
三原市沼田東町片島	小方島神社	標　柱	1855	安政二乙卯年八月	尾道石工　山根屋源四郎作
三原市糸崎南一丁目	塩釜神社	鳥　居	1856	安政三丙辰	棟梁尾道山根屋源四郎
岡山県小田郡矢掛町横谷	福頼神社	燈　籠	1856	安政三年丙辰三月	尾道　山根屋源四郎作
三原市幸崎町	幸崎神社	狛　犬	1857	安政四丁巳年正月吉日	尾道山根屋源四郎作
岡山県笠岡市大島中	河神社	狛　犬	1857	(安政四年)	尾道　山根屋源四郎作
愛媛県大洲市肱川町大谷	三島神社	狛　犬	1858	安政五戊午年九月廿三日	尾ノ道　山根屋　源四良　作
愛媛県西宇和郡伊方町井野浦	天満神社	鳥　居	1858	安政五午年三月吉日	石工　源四郎
岡山県里庄町浜中	素盞嗚神社	狛　犬	1858	戊安政五年午二月吉日	尾ノ道　山根屋源四郎作
尾道市東久保町	西郷寺	六地蔵像	1859	己未安政六年二月吉日	施主　山根屋源四郎
尾道市向東町森金	荒神社	狛　犬	1859	安政六年／未正月吉日	尾ノ道　山根屋源四郎作
三原市沼田東町七宝	沼田神社	常夜燈	1859	安政六巳未歳六月吉旦建之	尾道石工山根屋源四郎作之
愛媛県大洲市肱川町大谷	金刀比羅神社	狛　犬	1859	安政六年乙未十月十日	尾道　山根屋源四郎作
尾道市向島町江奥字荒神側	須佐之男神社	狛　犬	1860	安政七庚申年／三月吉日	尾道　山根屋源四郎　作
府中市高木町	皇子神社	狛　犬	1860	安政庚申年正月吉日	尾ノ道　山根屋源四郎作
尾道市瀬戸田町瀬戸田	生口神社	狛　犬	1861	万延二年庚申三月吉日	尾道石工山根屋源四郎作
尾道市東久保町	西郷寺	遥拝石	1862	文久二壬戌歳六月吉日建	願主　山根屋源四郎
岡山県里庄町新庄平井	日吉神社	狛　犬	1862	文久二壬戌二月吉日	石工尾道　山根屋源四郎作
東広島市西条町下見	下見八幡神社	燈　籠	1863	文久三癸亥八月十一日	尾道石工　源四郎
東広島市西条町上三永	築地神社	狛　犬	1865	慶応元年丑七月	尾ノ道山根屋源四良
尾道市瀬戸田町瀬戸田	両皇太神宮	玉垣石垣	1866	慶應二年丙寅三月吉日	尾ノ道山根源四郎　石工川嵜彦三郎
新潟県糸魚川市中浜	諏訪神社	狛　犬			尾道石工　山根屋　源四良
愛媛県松山市平田町	阿沼美神社	燈　籠			石工尾道山根屋源四郎作
尾道市美ノ郷町三成	三成八幡宮	鳥　居	1723	享保八癸卯歳九月吉日	石工尾道山根治良四郎
三原市木原三丁目	亀石神社	鳥　居	1808	文化五戊辰九月吉日	山根久四郎光久作
尾道市因島鏡浦町	厳島神社	鳥　居	1814	文化十一戊十一月吉日	石工山根屋久四郎
尾道市東土堂町	宝土寺	供養塔	1819	文政二乙卯四月吉日	當所石工　久四郎作
尾道市東久保町	西郷寺	宝篋印塔	1908	維時明治四十一年十一月	願主山根源四郎重弘

川﨑清三郎製作の石造物

福山市神村町	今伊勢神社	燈　籠	1765	明㖞二午年	尾道住石作藤原氏清三良
竹原市忠海中町三丁目	明泉寺	燈　籠	1773	安永二癸巳年十一月日	尾道石工清三良　同清三郎
竹原市高崎町	高宮神社	鳥　居	1776	時維安永五丙申冬臘月建之	尾道石工清三良作
竹原市本町三丁目	照連寺	燈　籠	1776	安永五丙申年七月上旬建	尾道石工　清三郎
愛媛県松山市船ヶ谷町	諸山積神社	鳥　居	1789	寛政元乙酉年十一月吉辰	尾道石工清三郎作
愛媛県伊予郡松前町出作	恵依弥二名神社	鳥　居	1790	寛政二庚戌正月吉日	尾道石工　川﨑清三郎貞之作
愛媛県松山市太山寺町	太山寺	鳥　居	1791	寛政三辛亥二月吉祥日	尾道石工川﨑清三良貞之作
尾道市長江一丁目	艮神社	燈　籠	1795	寛政七乙卯年九月吉日	石工　川﨑清三良　藤原貞之　作
尾道市土堂二丁目	住吉神社	常夜燈	1797	寛政九丁巳穐	石工　川﨑清三郎　藤原貞之　作
愛媛県松山市太山寺町	太山寺	燈　籠	1799	寛政十一巳未二月吉辰	尾道石工清三良作
尾道市瀬戸田町御寺	光明坊	鳥　居	1800	寛政十二年申八月吉日	尾道石工　川﨑清三郎作
尾道市瀬戸田町宮原	八幡神社	燈　籠	1802	享和二壬戌八月吉祥日	石工尾道住川﨑清三良作
三原市鷺浦町向田野浦	恵美須神社	鳥　居	1807	文化四丁卯八月吉日	石工尾道清三良
尾道市東久保町	浄土寺	常夜燈	1816	文化十三丙子九月吉日	石工川﨑　清三郎　作
尾道市向東町天女浜	天女浜神社	鳥　居	1820	文政三庚辰九月吉辰	石工　川﨑清三郎作
尾道市東久保町	浄土寺	手水鉢	1828	文政戊子之孟春造	石工棟梁川﨑清三郎　藤原貞些　石工　太七作
福山市内海町田島防地		燈　籠	1830	文政十三庚寅六月吉日	尾道之住人　石工　川﨑清三郎　藤原貞些(花押)
新潟県糸魚川市須沢	諏訪神社	狛　犬	1832	天保三歳辰六月	尾道石工川嵜清三郎藤原貞皆

山城屋惣八・宗八製作の石造物

福山市沼隈町能登原	八幡神社	狛　犬	1841	天保十二丑八月	尾道住　石工宗八作／同石工惣八作
新潟県糸魚川市能生町鬼舞	五社神社	狛　犬	1849	嘉永二己酉年八月吉日	備後尾道　石工總八作／惣八作
竹原市忠海東町五丁目	恵美須神社	鳥　居	1821	文政四辛巳九月吉日	尾道石工惣八作
三原市本郷南六丁目	恵美須神社	燈　籠	1829	文政十二乙丑三月吉日	尾道石工小兵衛作　尾道石工　惣八作
三原市沼田東町末光	西光寺	燈　籠	1833	天保四癸巳三月春	尾道石工惣八作
愛媛県松山市西垣生町	三嶋大明神	狛　犬	1835	天保六年九月吉日	尾道石工　惣八作
福山市沼隈町常石(西組)	八幡神社	燈　籠	1838	天保九戊戌年／八月吉祥日	尾道住　石工　惣八作
福山市沼隈町常石(西組)	八幡神社	狛　犬	1838	天保九戊戌八月吉日	尾道　石工　惣八　作
三原市幸崎町	久和喜神社	狛　犬	1840	天保十一子	尾道石工　惣□
愛媛県越智郡上島町下弓削	弓削神社	狛　犬	1840	維之天保十有一年歳在庚子三月吉日	石工尾道　山根惣八作
新潟県糸魚川市青海町青海	青海神社	燈　籠	1841	天保十二辛丑夏五月	石工惣八　(世話人)備後尾道　灰屋平助
福山市藤江町	鳶の子神社	狛　犬	1843	天保十四年癸卯九月吉日	尾道石工　惣八作
香川県丸亀市本島町大浦	四社明神	狛　犬	1843	天保十四年五月	尾道住　石工惣八作
新潟県糸魚川市須沢	諏訪神社	鳥　居	1844	天保十五歳甲辰六月吉祥日	備後尾道石工惣八作
岡山県笠岡市小平井	春日神社	狛　犬	1845	弘化二乙巳九月吉日	尾道石工　惣八作
愛媛県松山市久万ノ台	三島神社	狛　犬	1846	弘化三丙午八月吉日	尾道石工　惣八作
三原市沼田東町本市	沼田神社	燈　籠	1847	弘化四丁未九月	尾道石工　惣八作
廿日市市宮島町	豊国神社	燈　籠	1848	嘉永元戊申秋九月	尾道　石工惣八　作
新潟県糸魚川市能生町鬼舞	五社神社	鳥　居	1849	嘉永二己酉歳八月吉日建之	備後尾道　石工惣八作
新潟県糸魚川市青海町青海	青海神社	燈　籠	1850	嘉永三年庚辰五月吉日	石工惣八ヵ
山口県萩市大井	高倉神社	狛　犬	1853	嘉永六年癸丑三月吉日	尾道住　石工　山城屋惣八作
新潟県糸魚川市青海町青海	青海神社	燈　籠	1854	嘉永七甲寅七月	尾道石工惣八
新潟県糸魚川市田伏	奴奈川神社	狛　犬	1855	安政二□乙卯□春	尾道石工　山城屋惣八作
山口県岩国市美川町四馬神	河内神社	狛　犬	1855	安政二卯九月吉日	石工尾道山城屋惣八作
三原市幸崎町	幸崎神社	標　柱	1856	安政三丙辰十一月	尾道山城屋惣八
新潟県糸魚川市上刈	水前神社	鳥　居	1856	安政三年丙辰建立	尾道石工　山城屋惣八作
新潟県新潟市中央区一番堀通町	白山神社	鳥　居	1856	安政三年丙辰六月吉日	尾道石工　山城屋惣八作
岡山県笠岡市大島中	天王宮	狛　犬	1856	安政三辰六月	尾道石工　山城屋惣八作
三原市鷺浦町向田野浦	亀山八幡神社	狛　犬	1857	丁安政四巳正月吉日	石工尾道　山城屋惣八作　同惣八作
愛媛県宇和島市和霊元町	和霊神社	狛　犬	1857	安政四丁巳歳	石工尾道　山城屋惣八作
新潟県糸魚川市能生町能生	白山神社	手水鉢	1857	安政四年酉三月	石工尾道　山城屋　惣八
岡山県倉敷市玉島黒崎	七神社	玉　垣	1857	安政四丁巳年九月大吉日	石工尾道　山城屋惣八
三原市幸崎町	久和喜神社	玉　垣	1858	安政五戊午九月	尾道石工　山城屋惣八作
三原市須波西町	皇后八幡神社	狛　犬	1858	安政五午十一月	尾道石工　山城屋惣八　作
富山県射水市三ヶ高寺町	十社神社	狛　犬	1858	安政五年午九月	備後尾道石工山城屋惣八作
青森県下北郡佐井町	箭根森八幡宮	狛　犬	1858	安政五年八月十五日	尾道石工　山城屋惣八
福岡県行橋市神田町	正八幡神社	狛　犬	1858	安政五年戊午初夏	尾道石工　山城屋惣八作
尾道市瀬戸田町名荷	名荷神社	燈　籠	1859	安政六未正月	尾道石工山城屋惣八
福山市奈良津町三丁目	艮神社	狛　犬	1859	安政六年己未九月	尾道石工　山城屋　惣八作
廿日市市宮島町	大聖院	法華塔	1859	時安政六年己未六月吉祥日	尾道石工　山城屋惣八作
愛媛県宇和島市吉田町白浦	天満主神社	鳥　居	1859	安政六未二月	尾道石工　山城屋惣八作
愛媛県西宇和郡伊方町佐田	八幡神社	鳥　居	1859	安政六己未六月吉日	尾道石工　山城屋惣八作
岡山県浅口市金光町佐方	八幡神社	狛　犬	1859	安政六未八月吉日	尾道石工　惣八作
愛知県知多郡美浜町野間	正蔵寺	常夜燈	1860	萬延元庚申年	石工備後国尾道住　山城屋惣八作

尾道市向島町立花	妙見宮	燈　籠	1861	文久元辛酉九月	石工尾道山城屋惣八作
尾道市瀬戸田町御寺	光明坊	石　碑	1861	萬延二年辛酉正月二十五日	石工尾道町山城屋惣八作
福山市神辺町川南	艮神社	狛　犬	1861	文久元辛酉霜月	石工尾道山城屋惣八作
尾道市向島町津部田字宮ノ谷	五島神社	狛　犬	1862	壬戌文久二九月吉日	石工　尾道　山城屋惣八　作
尾道市浦崎町高屋		常夜燈	1862	文久二戌年	尾道石工山城屋惣八作
福山市藤江町	厳島神社	狛　犬	1862	文久二壬戌年	石工尾道　山城屋惣八作
廿日市市宮島町		燈　籠	1862	文久二年壬戌八月穀旦	石工　尾道山城屋　惣八　作
福山市沼隈町常石(西組)	八幡神社	手水鉢	1863	文久三癸亥九月	尾道石工　山城屋　惣八作
呉市仁方本町一丁目	新宮神社	狛　犬	1863	文久三年癸亥八月	尾道石工　山城屋　惣八作
愛媛県西宇和郡伊方町井野浦	天満神社	狛　犬	1863	文久三年	石工尾道　山城屋　惣八作
三原市幸崎能地	善行寺	石　塔	1864	文久四子天仲春吉旦	石工尾之道山城屋想八作
廿日市市宮島町	弥山	狛　犬	1867	慶應三年丁卯十一月穀旦	石工尾道　山城屋惣八
岡山県浅口市鴨方町小坂西	天神社	狛　犬	1867	慶應三卯春	石工尾道　山城屋惣八
広島市佐伯区五日市	八幡神社	狛　犬	1868	慶應四戊辰九月	尾道石工山城屋惣八
新潟県糸魚川市一ノ宮一丁目	天津神社	狛　犬	1868	慶應四戊辰年三月吉日	尾道石工　山城屋　惣八作
岡山県倉敷市栗坂	栗坂神社	狛　犬	1872	明治五年壬申八月	尾道石工　山根惣八作
三原市鷺浦町向田野浦	亀山八幡神社	燈　籠	1872	明治五年壬申三月吉日	石工尾道　山根惣八
竹原市忠海中町四丁目	稲荷神社	燈　籠	1879	明治十二年丙八月	尾道石工　山根惣八
愛媛県西予市明浜町狩浜	春日神社	狛　犬	1879	明治十二年九月吉日	廣島縣尾道　山根惣八作
愛媛県西予市明浜町狩浜	春日神社	玉　垣	1881	明治十四辛巳年九月吉日	備後國尾道久保町　石工　山根惣八作
尾道市東土堂町	天寧寺	香立台座	1882	明治十五年第八月日	石工　山根惣八　作
愛媛県西予市明浜町狩浜	春日神社	手水鉢	1882	明治十五年九月	廣島縣尾道　石工　山根惣八作
廿日市市宮島町	光明院	宝篋印塔			石工尾道　山城屋惣八
福山市金江町藁江	稲生神社	鳥　居	1822	文政五壬午十二月吉日	尾道石工宗八　同　嘉四良作
世羅郡世羅町津口	法泉坊	燈　籠	1822	文政五壬午年九月十八	石工尾道宗八作
尾道市因島重井町	八幡神社	燈　籠	1822	文政五午年九月吉日	尾道石工宗八作
尾道市長江一丁目	荒神社	鳥　居	1825	文政八年乙酉三月吉日	當所石工宗八作
尾道市御調町丸門田	萩八幡神社	燈　籠	1827	丁亥文政十年九月吉日	石工尾道住　山根宗八作
三原市鷺浦町向田野浦	亀山八幡神社	燈　籠	1827	文政十年庚寅八月吉日	尾道住石工宗八
尾道市因島鏡浦町	厳島神社	狛　犬	1829	文政十二己丑九月吉日	尾道石工　宗八作
三原市沼田町	荒神社	鳥　居	1831	天保二辛卯正月吉日	尾道石工宗八作
三原市本町三丁目	大島神社	燈　籠	1831	天保二年辛卯極月吉日	尾道住石工宗八作
山口県宇部市	西宮八幡宮	狛　犬	1834	天保五年	尾道　石工　宗八作
呉市清水一丁目	亀山神社	狛　犬	1835	天保六年乙未夏六月吉日	尾道石工宗八作
竹原市忠海東町五丁目	小丸居神社	狛　犬	1835	天保六乙未八月吉日	尾道　石工宗八作
三原市鷺浦町向田野浦	亀山八幡神社	石　柱	1836	丙天保七年申八月吉日	尾道住石工宗八作
愛媛県西予市宇和町岩木	三瓶神社	狛　犬	1836	天保七申六月吉日	尾道石工　宗八作
竹原市忠海本町２丁目	弁財天社	狛　犬	1838	天保九年戊戌之春正月	尾道石工　宗八
安芸郡府中町石井城一丁目		燈　籠	1841	天保十二辛丑二月	尾道　石工宗八　作
福山市神辺町湯野	日枝神社	狛　犬	1843	天保十四歳癸卯仲冬吉日	尾道石工　宗八作
岡山県笠岡市有田	在田神社	狛　犬	1843	癸天保十四年卯八月吉日	尾道石工　宗八作
廿日市市宮島町御笠浜		燈　籠	1845	弘化二乙巳九月吉日	尾道　石工宗八作
愛媛県今治市登畑	三島神社	狛　犬	1845	于時弘化二年乙巳正月吉祥日	尾道　石工宗八作
福山市横尾町	岩明神社	狛　犬	1846	弘化三丙午年	玉浦　石工宗八作
三原市鷺浦町向田野浦	亀山八幡神社	燈　籠	1850	庚嘉永三年戌十一月吉日	石工　宗八作
尾道市因島土生町	荒神社	鳥　居	1851	辛嘉永四亥三月	尾道石工　宗八作
尾道市向東町大町字宮ノ平	艮神社	狛　犬	1851	嘉永四年亥九月吉日	尾道　石工宗八　作
福山市山手町矢田	山手八幡神社	狛　犬	1852	嘉永五年壬子八月吉日	石工尾道　山城屋宗八　作
愛媛県西宇和郡伊方町三机	八幡神社	鳥　居	1852	嘉永五壬子正月吉日	尾道石工宗八作
岡山県里庄町里見東平井	荒神社	狛　犬	1862	文久二壬戌年	尾道　山城屋宗八作
三原市鷺浦町向田野浦	亀山八幡神社	狛　犬	1864	元治元甲子年霜月吉日	山城□　宗八作
愛媛県西宇和郡伊方町佐田	八幡神社	鳥　居	1864	元治元子三月	石工尾道　山城屋宗八作
山口県山陽小野田市西高泊	高泊神社	狛　犬	1864	元治元年	石工　尾道　山城屋宗八作
廿日市市宮島町大元		燈　籠	1865	慶應元年乙丑九月吉日	尾道石工　山城屋宗八作
三原市木原町	厳島神社	狛　犬	1865	元治二年乙丑正月吉祥日	石工尾道　山城屋宗八作
新潟県糸魚川市青海町青海	青海神社	鳥　居	1865	慶應元年乙丑五月吉祥日	石工　山城屋宗八
三原市本郷南方	弁海神社	狛　犬	1866	慶応二寅極月	石工尾道山城屋宗八作
廿日市市宮島町	大聖院	千手観音像	1867	慶應三年丁卯歳至日創立之	石工尾道　山城屋　宗八
岡山県倉敷市玉島道越	地神宮	狛　犬	1867	慶應三年丁卯九月	尾道　山城屋宗八作
岡山県矢掛町小田	荒神社	狛　犬	1867	慶應三年	石工尾道　山城屋宗八作
呉市蒲刈町向	春日神社	狛　犬	1869	明治二巳九月	尾道住石工宗八作
新潟県糸魚川市上刈	水前神社	燈　籠	1840	天保十一年庚子	備後尾路　石工總八
廿日市市宮島町御笠浜		燈　籠	1841	天保十二辛丑二月吉日	尾道　石工　總八　作
新潟県糸魚川市上刈	水前神社	燈　籠	1841	天保十二辛丑春	備後尾路　石工總八
尾道市東久保町	路傍	社日塔	1847	弘化四丁未歳正月	願主　石屋總八

丈助製作の石造物

徳島県名西郡石井町高原	新宮本宮両神社	狛　犬	1777	安永六年丁酉九月九日	石工　備後國　尾道丈助
三原市西宮一丁目	三原八幡宮	燈　籠	1783	天明三年癸卯春二月	尾道　石工丈助作
三原市東町三丁目	熊野神社	常夜燈	1785	天明五乙巳歳	尾道石工　丈助作
岡山県笠岡市神島外浦	日光寺	常夜燈	1785	天明五乙巳歳三月日	尾野道住　石工丈助作
三原市沼田東町片島	小方島神社	狛　犬	1786	天明六丙午歳春二月吉辰	尾道住　石工丈助作
三原市本町二丁目	大島神社	手水鉢	1787	天明七丁未	尾道石大工丈助
廿日市市宮島町御笠浜		青銅燈籠台座	1788	天明八戊申正月吉日	尾道住　石工丈助作
三原市沼田東町末広	軍明神社	鳥　居	1788	天明八戊申九月吉日	尾道住石工丈助作
福山市松永町五丁目	潮崎神社	燈　籠	1789	寛政元巳酉年八月吉日	石工　丈助作　　石工　平七　正朝作
呉市広長浜四丁目	入江神社	燈　籠	1789	寛政元乙酉歳霜月十五日	尾道石工丈助作
竹原市本町三丁目	西方寺	燈　籠	1793	寛政五癸丑年百五十回忌為其追	尾道石工丈助
福山市松永町五丁目	潮崎神社	常夜燈	1794	寛政六甲寅八月吉日	石工　丈助作
福山市水呑町	八幡神社	燈　籠	1799	寛政十一巳未八月	尾道　石工　丈助
尾道市因島洲江町	八幡神社	鳥　居	1800	寛政十二庚申八月吉日	石工尾道住丈助作
福山市沼隈町草深	寄宮八幡神社	狛　犬	1800	寛政十二年庚申六月吉日	石工　尾道住　丈助作
三原市沼田東町納所	一宮豊田神社	鳥　居	1810	文化七年庚午六月吉祥日	尾道住石工丈助作
尾道市因島重井町	八幡神社	鳥　居	1812	文化九壬申正月廿八日	尾道石工丈助作
三原市久井町	久井稲荷神社	カンザシ燈籠	1814	文化十一年甲戌仲夏吉日	尾ノ道石工　丈助作
山県郡安芸大田町		燈　籠	1814	文化十一戌九月吉祥日	尾道石工丈助作
福山市南蔵王町六丁目		常夜燈	1816	文化十三歳丙子春正月	尾道　藤原丈助作(尾道石工太兵衛　長吉　庄七　石工丈助倅吉兵衛)
三次市甲奴町小童	須佐神社	燈　籠	1816	維時文化十三年丙子十一月吉日	尾道　石工丈助作　同　幸蔵　同　太兵衛　同　長吉
尾道市因島中庄町	八幡神社	狛　犬	1817	文化十四丁丑八月	石工丈助作
尾道市瀬戸田町林	穀神社	鳥　居	1820	文政三庚辰秋八月吉日	尾道石工丈助作
福山市東深津町六丁目	塩崎神社	狛　犬	1821	文政四年巳九月吉日	尾之道　石工丈助作
尾道市東久保町	浄土寺	燈　籠	1824	文政七甲申年十月吉日	石工丈助　作
福山市草戸町	法音寺	地蔵像	1824	文政七甲申秋上□	尾道石工丈助作
竹原市田ノ浦一丁目	磯宮八幡神社	狛　犬	1825	文政八年歳在乙酉五月吉日造之	尾路石工丈助彫造
尾道市向島町兼吉字亀森	八幡神社	狛　犬	1828	于時文政十有一歳戊子九月	尾道　石工丈助
竹原市高崎町	大乗神社	狛　犬	1828	文政十一年戊子八月吉日	尾道石工丈助作
三原市鷺浦町向田野浦	恵美須神社	狛　犬	1831	天保二年	石工　丈助作
尾道市長江一丁目	正授院	法華塔	1841	天保十二辛丑年霜月置之	石工　丈助作
尾道市東久保町	海龍寺	鳥　居	1859	安政六己未九月吉日	石工　丈助作
廿日市市宮島町		青銅狛犬台座			石工　尾道丈助作
尾道市向島町東富浜	厳島神社	鳥　居		江戸後期	石工丈助作
大分県東国東郡姫島村南	真戒寺	仁王像		江戸後期	石工丈助作

島居勘十郎製作の石造物

豊田郡大崎上島町中野	中野八幡宮	鳥　居	1784	天明四甲辰歳八月吉日	尾道石工勘十郎
尾道市瀬戸田町宮原	荒木神社	燈　籠	1787	天明七丁未八月吉日	石工勘十良
鳥取県鳥取市賀露町	賀露神社	燈　籠	1800	寛政十三庚申季正月吉日	尾道石工　勘十良作
尾道市東久保町	浄土寺	燈　籠	1802	享和二壬戌正月吉辰	石工勘十良
鳥取県鳥取市賀露町	上小路神社	鳥　居	1802	享和二壬戌歳五月再建	備後尾道住　石匠　嶋居勘十郎□之
福山市内海町田島大浦	宮脇山八幡神社	燈　籠	1826	文政九年丙戌秋八月吉日	尾道住石工　嶋居勘十郎　久之作
竹原市本町一丁目	住吉神社	手水鉢	1826	文政九丙戌十月吉日	尾道石工　嶌居勘十郎久之作
愛媛県伊予市双海町上灘	三島神社	狛　犬	1829	文政十二丑年九月吉日	尾道石工嶋居勘十郎　藤原泰延作
尾道市向島町東富浜	厳島神社	狛　犬	1831	天保二季歳秋九月	石工勘十郎奉延作
尾道市百島町坂	路傍	常夜燈	1834	天保五甲午年六月吉日	尾道石工　島居勘十郎　作
新潟県糸魚川市糸魚川本町	諏訪神社	燈　籠	1834	天保十年春	備後尾路藤原勘十郎
尾道市高須町	高須八幡神社	狛　犬	1838	天保九年戌九月吉日	尾道住　嶋居勘十郎作
尾道市吉和西元町	湊神社	狛　犬	1838	天保九年戊戌九月	尾道住　嶋居勘十郎作
山口県玖珂郡由宇町柏原	榊八幡宮	狛　犬	1838	天保九年	尾道住人　石工勘十郎作
尾道市因島中庄町	八幡神社	手水鉢	1839	天保十己亥八月吉日	尾道住　石工　嶋居勘十郎　作
呉市安浦町	亀山八幡宮	狛　犬	1839	天保十一亥之歳八月吉日	備後尾路石匠島屋勘十郎作
三原市本郷町北方	寄宮神社	鳥　居	1840	天保十一庚子三月吉日	尾道石工島居勘十郎作
竹原市忠海東町五丁目	小丸居神社	燈　籠	1840	天保十一年子正月吉日	尾道　住人　嶋居　勘十郎　作
徳島県名西郡石井町藍畑	産神社	狛　犬	1840	天保十一年子十一月吉日	尾道住　石工　嶋居勘十郎作
尾道市長江一丁目	御袖天満宮	筆形碑	1841	天保十二季辛丑之夏	島居勘十郎作
福山市坪生町	神森神社	狛　犬	1841	天保十二辛丑八月吉日	尾道　石工　勘十郎　作
豊田郡大崎上島町木江	厳島神社	燈　籠	1842	天保十三年寅六月十七日	尾道石工嶋居勘十良
島根県江津市本町	山辺神社	燈　籠	1843	天保十四卯十月吉日	尾道石工　嶋居勘十郎　作
兵庫県姫路市飾磨区恵美酒	天満神社	狛　犬	1844	天保十五甲辰十一月吉日	尾道　石工嶋居　勘十良　作
岡山県倉敷市連島町	亀島神社	狛　犬	1844	天保十有五年甲辰五月建立	□□石工　□十郎作

愛媛県大洲市長浜町出海	出海神社	鳥　居	1845	弘化二年乙巳三月十日	尾道石工嶋居勘十郎作
尾道市長江一丁目	福善寺	手水鉢	1846	弘化第三丙午孟春調焉	石工　島居勘十郎　澁谷新蔵
竹原市田ノ浦一丁目	磯宮八幡神社	標　柱	1846	弘化三年歳在丙午三月	石工尾路島居勘十郎
尾道市吉和西元町	八幡神社	燈　籠	1847	弘化四年丁未九月吉辰	尾道石工　嶋居勘十郎　作
福山市東深津町五丁目	王子神社	狛　犬	1847	丁弘化四年未八月吉日	尾道石工　嶋居勘十郎作
島根県大田市仁摩町宅野	宅野八幡宮	玉　垣	1848	嘉永紀元戊申秋八月恭建	尾道石工　嶋居勘十郎　作
竹原市竹原町	湊神社	狛　犬	1849	嘉永二歳在乙酉秋九月吉日	尾道石工　島居勘十郎
愛媛県西宇和郡伊方町平碕	三社神社	狛　犬	1849	嘉永二酉八月吉日	尾道住　石工勘十郎作
岡山県笠岡市新賀	海神社	狛　犬	1849	嘉永二歳在乙酉秋九月良辰謹而建焉	尾道住石工　勘十良作
島根県大田市久手町	苅田神社	狛　犬	1849	嘉永二年乙酉三月吉日	尾道住石工　嶋居勘十郎
府中市上下岩崎	亀山八幡神社	狛　犬	1850	嘉永三庚戌年冬十一月吉日	石工尾道甼嶋居勘十郎　石工矢多村山本政吉
尾道市瀬戸田町林	多賀神社	燈　籠	1851	嘉永辛亥四年正月吉辰建之	尾道石工　嶋居勘十郎　作
岡山県岡山市北区中撫川	須佐之男神社	狛　犬	1851	嘉永四年辛亥三月吉日	尾道石工　嶋居勘十郎作
福山市沼隈町常石(片山)	八幡神社	狛　犬	1852	嘉永五年壬子霜月吉日	尾道石工　嶋居勘十郎　作
岡山県里庄町里見	高岡神社	狛　犬	1852	嘉永五年壬子八月吉日	尾道住石工　勘十郎
島根県浜田市	龍雲寺	宝篋印塔	1858	安政五年	尾道住人石工勘十郎　作
愛媛県宇和島市和霊元町	和霊神社	手水鉢	1859	安政六年己未十月吉日	尾道石工　島屋勘十郎作
尾道市東久保町	浄土寺	燈　籠	1860	安政七年庚申三月吉日	當所石工　勘十良　□
三原市須波西町	皇后八幡神社	燈　籠	1861	文久元年歳在辛酉陽月吉日	尾道石工　勘十郎　作
三原市長谷町	長谷神社	鳥　居	1863	文久三歳癸亥八月吉祥日	尾道石工　勘十郎
尾道市向東町森金字宮廻	八幡神社	燈　籠	1866	慶應二丙寅三月	尾道石工　勘十郎　作
三原市糸崎八丁目	糸碕神社	燈　籠		江戸時代	尾道　之住　石工　島居勘十郎　作
島根県大田市鳥井町	佐比売山神社	鳥　居			石工　勘十郎作

嘉十郎製作の石造物

神石高原町草木	八幡神社	燈　籠	1826	文政九年丙戌八月吉日	石工尾道　嘉十　弥兵衛　作三郎
尾道市長江一丁目	妙宣寺	手水鉢	1841	天保十二歳辛丑十二月	石工　嘉十郎
尾道市長江一丁目	艮神社	手水鉢	1842	壬寅天保十三年六月吉日	石工　嘉十郎　同　助七
石川県金沢市大野町五丁目	日吉神社	鳥　居	1843	天保十四癸卯暦六月吉日	尾道　富吉屋　嘉十郎作
石川県金沢市大野町五丁目	日吉神社	燈　籠	1844	天保十五年甲辰六月建之	石工尾道　藤原嘉十郎作
尾道市長江一丁目	妙宣寺	題目塔	1845	弘化二歳次乙巳五月	石工　嘉十郎
青森県上北郡野辺地町寺ノ沢	常光寺	手水鉢	1845	弘化二乙巳六月	石屋嘉十郎(文書による確認)
青森県上北郡野辺地町寺ノ沢	海中寺	手水鉢	1845	弘化二乙巳六月	石屋嘉十郎(文書による確認)
香川県三豊市仁尾町仁尾	関清水神社	燈　籠	1848	弘化五戊申五月吉日	尾道　石工嘉十郎　作
尾道市長江一丁目	御袖天満宮	燈　籠	1850	嘉永三戊年三月吉日	石工　嘉十郎
尾道市長江一丁目	艮神社	標　柱	1851	嘉永四季辛亥春二月下浣建	石工　嘉十郎　同　丈平
愛媛県今治市朝倉下	満願寺	狛　犬	1851	嘉永四年歳次辛亥八月吉日	尾道石工　嘉十郎　同　彦三郎作
尾道市長江一丁目	御袖天満宮	鳥　居	1852	嘉永五壬子正月吉日	石工嘉十郎作
尾道市西久保町	八幡神社	百度石	1854	嘉永七歳甲寅霜月	石工　嘉十郎　作
福山市南松永町	五社稲荷神社	狐	1855	安政二卯年正月吉辰日	尾道石工嘉十郎
竹原市新庄町	総都八幡神社	燈　籠	1855	安政二卯八月吉日	尾道石工　嘉十郎作
三原市本郷南七丁目	橘神社	標　柱	1857	安政四丁巳四月	尾道石工　嘉□□
石川県金沢市大野町五丁目	日吉神社	燈　籠	1860	安政七□□四月吉日	尾道石工　嘉十郎作
福山市南松永町	荒川神社	狐	1863	文久三年癸亥四月	尾道石工　嘉十郎作
福山市南松永町	荒川神社	鳥　居	1863	文久三年癸亥四月吉日	尾道石工　嘉十郎作
尾道市東久保町	浄土寺	燈　籠	1864	元治紀元甲子九月吉日	當所　石工嘉十郎　作
尾道市長江一丁目	御袖天満宮	標　柱	1866	慶應二年歳次丙寅十二月廿五日	石工　嘉十郎
尾道市因島重井町	白滝山	磨崖仏			石工嘉十郎
石川県金沢市大野町五丁目	日吉神社	鳥　居			尾道　富吉屋　嘉十郎作